

第155図 MJR216実測図 (1:100)



MJR216 土層断面

西端部では、江戸時代に作られた南北方向の石組水路が走っており、検出した石組は屋敷側の石垣と裏込石である。この石垣から約0.3m東側に石列を検出した。この石列は屋敷地内側に面をもち、2~3段積まれており裏込石は検出されなかった。石はほとんどが大海崎石であった。本調査3-2a区の石列1にあたる。この石組水路と石列を取り除き、標高0.35m前後から南北へ続く素掘りの大溝（同上調査区SD02）をII層面で検出した。

10. MJR216（第155図）

調査地は、（殿町345外）で、電線共同溝工事に伴うN T T管路確認の試掘調査である。範囲は、東西2.0m×南北2.0m×深度1.6mである。

調査区北側で歩道から0.5m下からガス管、西側で0.9m下から下水管、1.5m下からI層を検出した。

また自然堆積層付近で、石と南北方向の胴木と考えられる木を2本検出した。雨降りの夜間立会と湧水による崩落などのため、困難な調査であった。

遺物は出土していない。

11. MJR217（第156図）

調査地は、（殿町345外）で、電線共同溝管路掘削工事に伴う調査である。範囲は、東西1.4m×南北8.2



第156図 MJR216実測図 (1:100)

m×深度2.4mである。

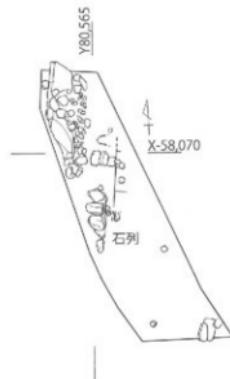
南側で石組水路の裏込石を検出した。現地表下1.2mは、下水管により搅乱を受けていた。調査区の中程から北側1.0～2.0mの間、標高0.7m前後でウラジロ(シダ類)を敷いたような面を検出した。

また南側で標高約0.4mから北側への落ち込みと、その肩から3.0m北側へ行った標高約0.6mから、南への落ち込みを確認した。いずれもウラジロ(シダ類)を含む落ち込みであった。この落ち込みは、素掘りの大溝と考えられる。I層は南では確認出来なかったが、6.5m程北側では標高0.5mで検出している。この層は細砂や小礫がやや波打つように混合していた。

12. MJR219

調査地は、(殿町345～353)で、電線共同溝管路掘削工事に伴う調査である。車道の横断であるため夜間立会となった。範囲は、東西1.3m×南北9.5m×深度2.5mである。

道路面下0.5mから2.0m付近まで、水道本管、下水管、N T T管路、ガス管、不明管などにより自然堆積層まで搅乱を受けていた。南端はマンホール工事時に調査済みであった。北側のアスファルト下で、MJR217へ続く石組水路を検出した。石は上の一段はコンクリートで落下防止がしてあったが二段目は湧水により崩落の危険があったため、写真のみの調査となった。調査区中程の標高0.34mで1層を検出している。



13. MJR220 (第157図)

調査地は、(殿町343-2)で、電線共同溝に伴う管路掘削工事に伴う調査である。範囲は、東西6.5m×南北1.3m×深度1.5mである。

地表面下0.1m程で側溝石垣の屋敷側の石垣と裏込石を検出した。また、石垣から0.3m東で石列を検出したが、屋敷地内側を面として積まれており、ほとんどが大海崎石で1列2段であった。石列の天端は標高1.25m前後である。この石列は調査区南側から2.5m北まで続いており、さらにそこから東側へ向きを変えている。石列付近で径10cm～15cmの杭を数本検出した。

0 1:100 5m
第157図 MJR220実測図 (1:100)



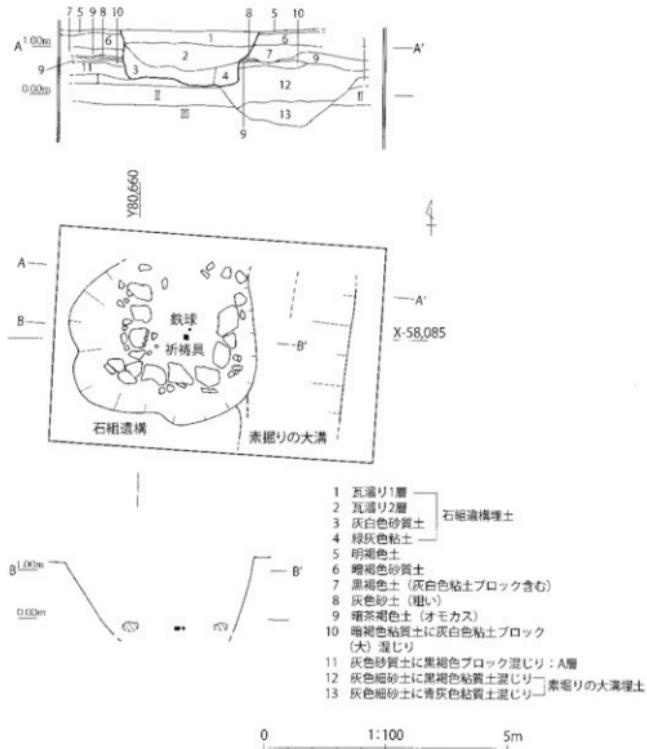
MJR220 石垣検出状況

14. MJR240(第158図)、遺物(第159図、図版67)

調査地は、(母衣町45-2外)で、電線共同溝のマンホール設置工事に伴う調査である。範囲は、東西7.2m×南北4.4m×深度2.8mである。

工事予定地東側の現道路側溝の内側に石垣が2段ほど残存していた。上1段目は一辺40cmを超えるしっかりした大海崎石が使用されていたが、下2段目は半分以下の石であった。側溝石垣の裏側の検出となつたが、調査を行った後、埋め戻して、改めてマンホール部分を約1.0mほど掘削して矢板を四辺に打ち込んだ。その後、精査を行ったところ、ほぼ全面にわたり大形土坑であることが判明した。

標高1.2mで、一辺2.3mを囲む方形の石組みが検出され、底から木製の祈禱具と鉄球が出土した。また、城下町造成最初期に掘削されたと考えられる素掘りの大溝(南北)を確認した。南北方向の素掘りの大溝の発見は、城下町遺跡の調査を通じてこの調査地が初めてであった。なお、これに隣接する南側は本調査3-5区として実施している。

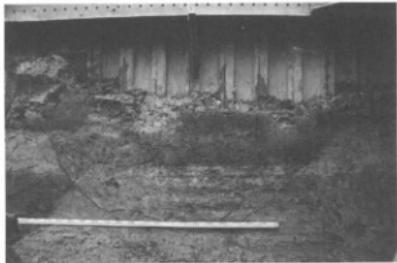


第158図 MJR240実測図(1:100)

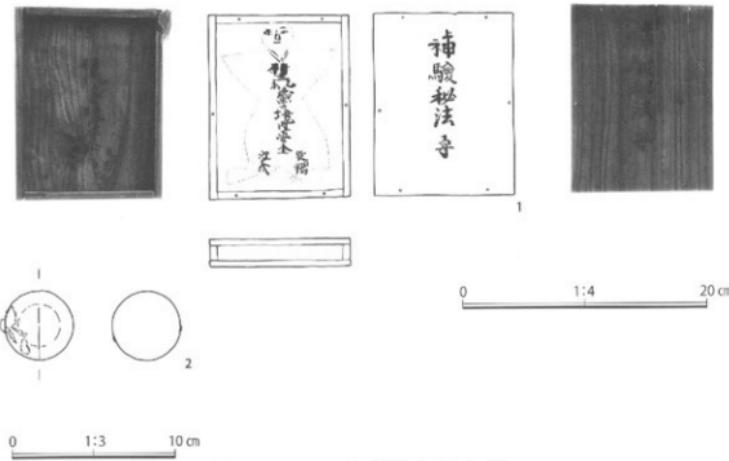
出土遺物（第159図）1は木製の木箱で、外面には「上神験秘法守」と墨書がある。中には「順末乙歳男境内安全、災福、除口」と墨書された人形の半紙が封印されている。「神験」は修験道で行われる呪術の言葉で、神道では使用しない。「秘法」は幕末以降に使用された密教の呪術。「守」は幕末においては使用されない。未乙（ひつじきのと）は1655（明暦元）年・1715（正徳5）年・1775（安永4）年・1835（天保6）年・1895（明治28）年が当たる。よって、明治以降、密教修験者により、未乙生まれの歳男について、それが住んでいる地域の安全を祈願して埋納したものと推察される。なお、出土地点が方形の石組遺構の底であることから、井戸もしくは地下貯蔵施設の廃棄の際に、その安全を祈願して埋納したものと推察することもできる。2は鉄球である。直径4.2cm、重さ291.5gを測る。大きさに比して重さが軽い（純度100%の3分の2）ことから、鉄素材の金属製品である。鉄球は、松江歴史館：松江城下町遺跡（殿町279、287番地）でも地鎮の際の祈祷具として検出されている。



MJR240 石組遺構検出状況



MJR240 北壁土層断面 (素掘りの大溝)



第159図 MJR240 出土遺物 (1:3, 1:4)

15. MJR246 (第160図)

調査地は、(母衣町45-2外)で、電線共同溝の位置確認の掘削工事に伴う調査である。裁判所交差点西側にあたり、範囲は、東西1.9m×南北10.05m×深度1.5mである。

地表面下1.5m、標高0.2mでⅠ層とその下のⅡ層がわずかに検出された。南側側溝部分は以前に本調査済である。北側でⅡ層を検出したが、Ⅰ層は確認できていない。また、拳大程度の石列が確認されたが、石組の根石の部分の可能性がある。

遺物は出土していない。

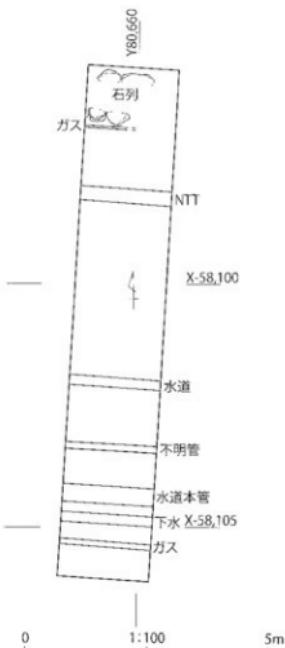
16. MJR248 (第161図)

調査地は、(母衣町68)で、電線共同溝工事に伴う調査である。裁判所交差点北側市道部分にあたり、範囲は、東西13.0m×南北1.7m×深度2.3mである。

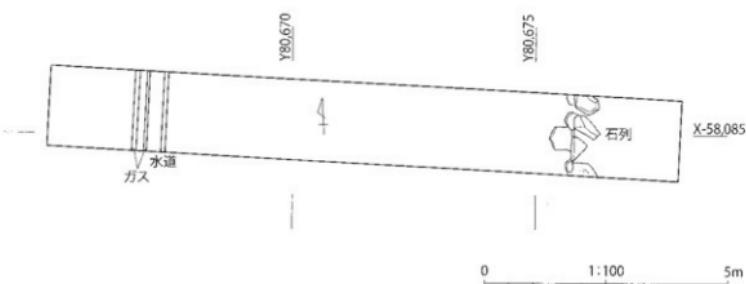
裁判所側の歩道部分のコンクリート側溝の直下で、裁判所側に面をそろえた石列が検出された。側溝の下には礫が敷かれ、その下に石列があることから、側溝石垣に使われていた石を現道路側溝の基礎に再利用したものと考えられる。

石は厚さ20cm前後の平石が使われており、南北に統一しているようである。先のMJR240の調査で側溝石垣を検出している。

道路面下1.4mでⅠ層を検出した。



第160図 MJR246実測図 (1:100)

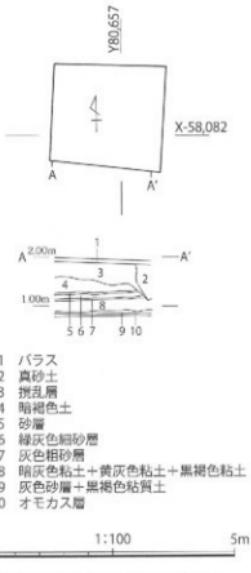


第161図 MJR248実測図 (1:100)

17. MJR254（第162図）

調査地は、(母衣町45外)で、集水井掘削工事に伴う調査である。範囲は、東西2.3m×南北2.2m×深度1.2mである。

道路面下1.1mで暗褐色系の粘質土を検出した。



18. MJR256

調査地は、(母衣町46)で、集水井設置工事に伴う調査である。MJR240調査区の北側にあたり、範囲は、東西2.0m×南北4.4m×深度1.1mである。

MJR240で検出されていた南北方向の側溝石垣が1段とその根石部分が残存していたが、これらは既存の排水溝のコンクリートと一緒に化しており、排水溝の側壁に利用されていたものと思われる。

19. MJR259（第163図）

調査地は、(母衣町68)で、NTT電話線埋設工事に伴う調査である。松江地方裁判所西交差点北にあたり、範囲は、東西1.0m×南北7.0m×深度1.7mである。

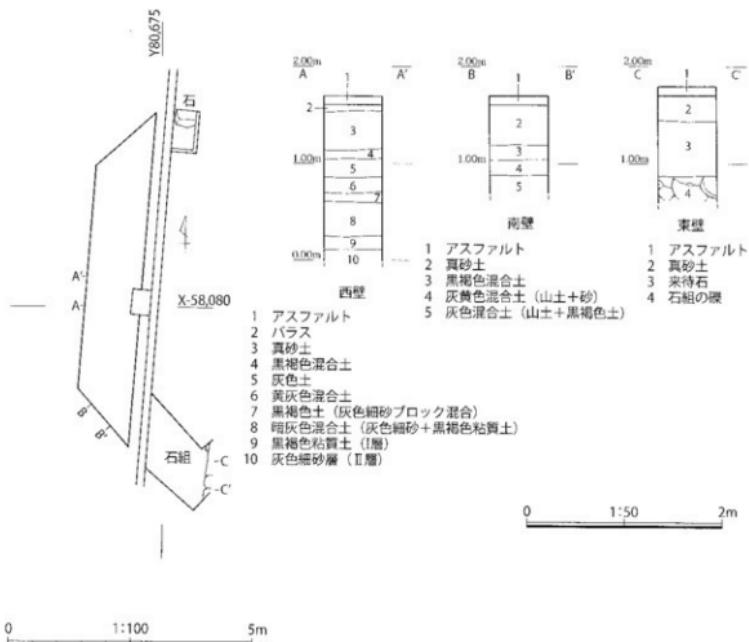
南側で加工された来待石(40×60cm大)と、その下で石組を確認した。断面A-A'で道路面のような土層の堆積が認められた(A-A'の7層上面とB-B'の4層上面)。山土と砂礫が互層状に堆積し、固くしまっている。南側で検出した来待石とその下にある石組は、側溝石垣と考えられるが、来待石は西向きに面をもって作られており、側溝の屋敷側石垣に相当するものと思われる。



MJR256



MJR259土層断面



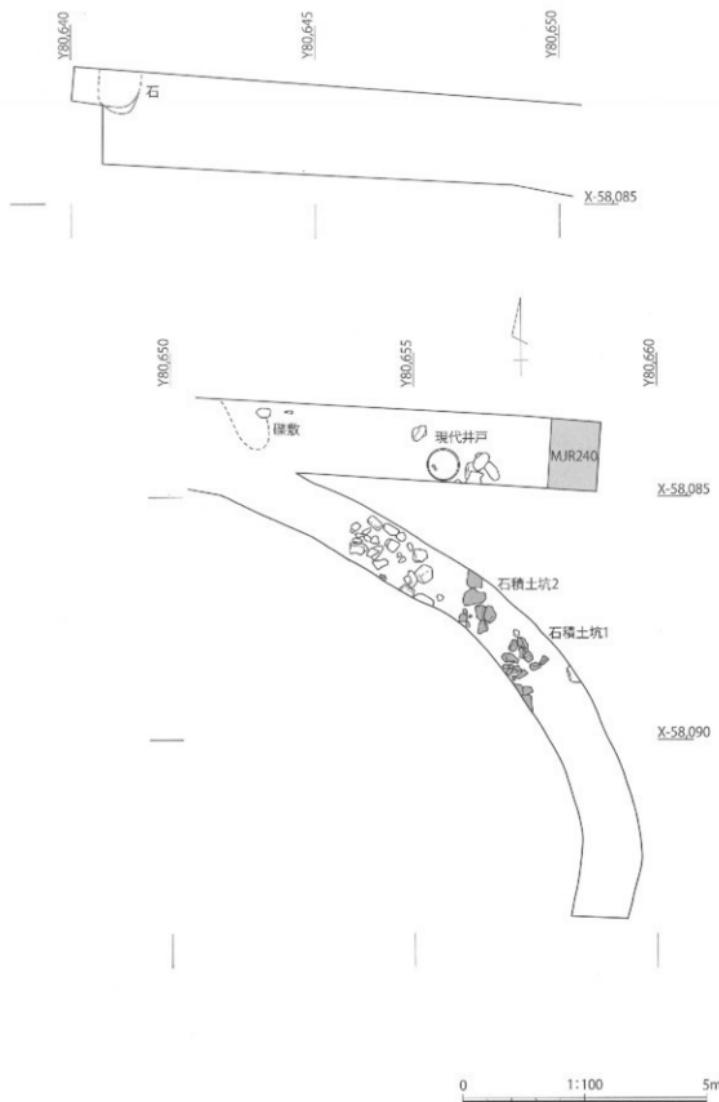
第163図 MJR259実測図（平面1:100 土層断面1:50）

20. MJR329 (第164図)

調査地は、(母衣町44~45外)で、電線共同溝工事に伴う調査である。松江地方裁判所西交差点の西北部にあたり、範囲は、東西18.0~18.8m×南北1.4~2.0m（東西方向）と東西1.2m×南北12.6m（南北方向）の2ヶ所で、途中で合流する形となる。深度は1.8~2.5mである。

東西方向の調査地は、調査済みのMJR240から西に向かうもので、西に1.5mの標高0.75~0.9mで、20~30cm大の島石を数個検出した。また、その隣で来待石製の現代井戸を検出した。西へ6.0mの標高1.0m前後で、礫敷きを検出ましたが、北側へ続くようである。

南北方向の調査地は、道路側から北に5.0mの標高0.01~0.25mで、20~30cm大の石を多数検出した。石は大海崎石で、幅0.5mで南北方向に1.5m分並ぶ。検出標高と位置関係から、本調査(3-4区)で確認された石積土坑1の東側の石積石と考えられる。また、その北西約1.0mで、南北方向に並ぶ石を検出した。標高0.3~0.5mで、そのうち30~50cm大の石は西に面をもって組まれているようである。これらの石は、検出標高と位置関係から、本調査3-4区で確認された石積土坑2の東側の石積石と考えられる。標高0.4mでI層を確認した。



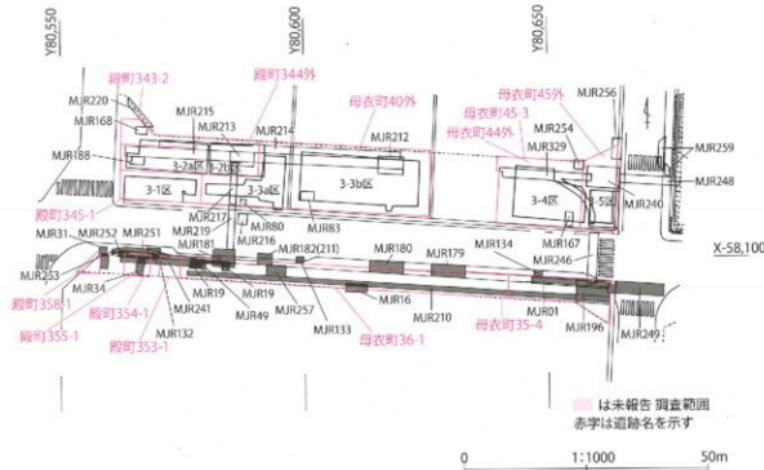
第164図 MJR329実測図 (1:100)

表114 第3ブロック立会調査一覧

| 編番 | 調査区域 | 道路名 | 調査日 | 調査面積 (m ²) | 長軸×短軸 (m) | 深さ (m) | 調査者 | 検査方法 | 調査体制 | 調査 担当者 |
|----|--------|---------------|---------------------------|---------------------------|---|-------------|--------------------|---|---------------------------|-----------|
| 1 | MJR00 | 母衣町 45番 | 08.04.01 | 2.0 | 東西13×南北1.5 | 1.0 | 汚水樹液生 | 石経水路 迷物追跡 | 松江市教育委員会 文化財課 | — |
| 2 | MJR03 | 〃 | 08.03.16 | 5.0 | 東西18×南北1.8 | 1.5 | 試験調査 | 〃 | 〃 | — |
| 3 | MJR107 | 母衣町 45-3 | 09.03.24 | 4.8 | 東西18×南北1.0 | 2.7 | 市教委分 (遺跡確認調査) | 〃 | 〃 | — |
| 4 | MJR108 | 道町 343-2 | 09.03.24 | 3.0 | 東西18×南北1.0 | 1.8 | 市教委分 (遺跡確認調査) | 〃 | 〃 | — |
| 5 | MJR109 | 道町 344番 | 10.01.18 | 4.5 | 東西18×南北1.5 | 2.2 | 試験調査 | 〃 | 〃 | — |
| 6 | MJR121 | 母衣町 45番外 | 10.07.26 ～10.07.27 | 16.0 | 東西50×南北3.2 | 2.8 | マンホール (SNC) | 本調査 母衣町40番 SX02 | (財)松江市教育文化施設事業団 埋蔵文化財課 | 中尾 |
| 7 | MJR213 | 道町 345番外 | 10.06.04 ～10.06.07 | 16.0 | 東西18×南北3.2 | 2.8 | マンホール (MPC) | 〃 | 〃 | 〃 |
| 8 | MJR214 | 母衣町 45番 | 10.09.01 ～10.09.09 | 59.5 | 東西49×南北1.2 | 2.0 | 汚水管複数 | 未詳石製の井戸・瓦廻り 南北1.2×造模 (本調査母衣町40番 SX02) | 〃 | 〃 |
| 9 | MJR215 | 〃 | 10.08.18 ～10.10.05 | 111.0 | 東西52×南北2.0 | ~1.5 | 電線共同溝 | 瓦廻り・石経水路 ウラジロ土坑 MJR213と同様の溝鉄道橋 | 〃 | 〃 |
| 10 | MJR216 | 道町 345番外 | 10.09.22 | 4.0 | 東西20×南北2.0 | 1.8 | NTT導送の試掘 (花崗立会) | 桐木 | 〃 | 〃 |
| 11 | MJR217 | 〃 | 10.09.30 ～10.10.01 | 115 | 東西14×南北8.2 | ~1.9 | 電線共同溝 | 石経水路の剥落石 ウラジロ土坑 桐木 | 〃 | 〃 |
| 12 | MJR219 | 道町 345-350 | 10.03.14 ～10.10.19 | 12.4 | 東西13×南北3.5 | 2.5 | 電線共同溝 (花崗立会) | 〃 | 〃 | 〃 |
| 13 | MJR220 | 道町 343-2番 | 10.10.25 ～10.10.28 | 8.5 | 長6.5×幅1.3 | 1.5 | 電線共同溝 | 石経水路 | 〃 | 〃 |
| 14 | MJR240 | 母衣町 45-2番 | 11.07.08 ～11.07.19 | 31.7 | 東西17.2×南北4.4 | 2.8 | 電線共同溝 マンホール | 石経水路 | 〃 | 〃 |
| 15 | MJR246 | 〃 | 11.08.23 | 19.0 | 東西1.8×南北10.5 | 1.5 | 水道管・大水管 位置確認のため | 石列 | 〃 | 〃 |
| 16 | MJR248 | 母衣町 58 | 11.08.30 ～11.09.08 | 22.1 | 東西12.0×南北1.7 | 2.3 | 電線共同溝 | 石経 MJR240の石経水路 | 〃 | 〃 |
| 17 | MJR254 | 母衣町 45番 | 11.11.02 | 5.1 | 東西2.3×南北2.2 | 1.2 | 集水槽 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 18 | MJR256 | 母衣町 46 | 11.11.07 ～11.11.08 | 8.8 | 東西2.0×南北4.4 | 1.1 | 集水槽・構造物 撤去 | MJR240の石経水路 | 〃 | 〃 |
| 19 | MJR259 | 母衣町 68 | 12.02.10 | 17.7 | 東西10×南北2.0 | 1.0 | NTT電話接線放 置 | 未詳石 石経 | 〃 | 圓山 |
| 20 | MJR329 | 母衣町 44～45番 | 12.08.01 ～12.08.04, 06 | 46.7 | 東西18.0～18.8 ×南北1.4～2.0 東西1.2×南北12.6 | 1.5 ～2.5 | 電線共同溝 | 〃 | 吉島 | 吉島 |

第3節 第4ブロックの調査

第4ブロックは、主要地方道松江・鹿島・美保関線と市道母衣南北線にはさまれた城山北公園線沿いの南側部である。東西約120mの区画で、調査地は、ほとんどが城山北公園線沿いの南側歩道部分にあたる(第165図)。



第165図 第4ブロック立会調査範囲図 (1:1,000)

1. MUR01 (第166図)

調査地は、(母衣町35-4)で、水路コンクリート撤去工事に伴う調査である。松江地方裁判所西交差点の南にあたり、範囲は、東西16.5m×南北1.3m×深度0.3mである。

道路側溝の石組水路を検出した。石組は、幅0.7mで、屋敷側に2段程度積み上げている。石組の高さは最大で1.1mを測る。主に0.6~1.0mの大青海崎石が使われている。石は切り石のように精巧に加工したもので、石の面もノミで仕上げてある。その下には大青海崎石の根石が確認された。対する道路側では小ぶりな石を使って積まれている。現在の道路舗装面の下に古い時代の舗装面があり、その下に高さ0.16mの来待石が、さらにその下に高さ0.2mの島石(堅硬多孔質玄武岩)が積まれている。一部深掘りした所ではさらに下に、高さ0.2mの大青海崎石が確認された。江戸時代の道路面がどのレベルか不明であるが、島石の上面と想定すると、道路面は屋敷側の石組天端より約0.5m低かったことが推測される。

2. MUR16

調査地は、(母衣町36-1)で、側溝新設工事に伴う調査である。範囲は、東西4.5m×南北1.7m×深度1.0mである。

調査範囲内は掘削深度まで搅乱を受けており、遺構遺物とも検出されなかった。

3.MJR19（第167図）

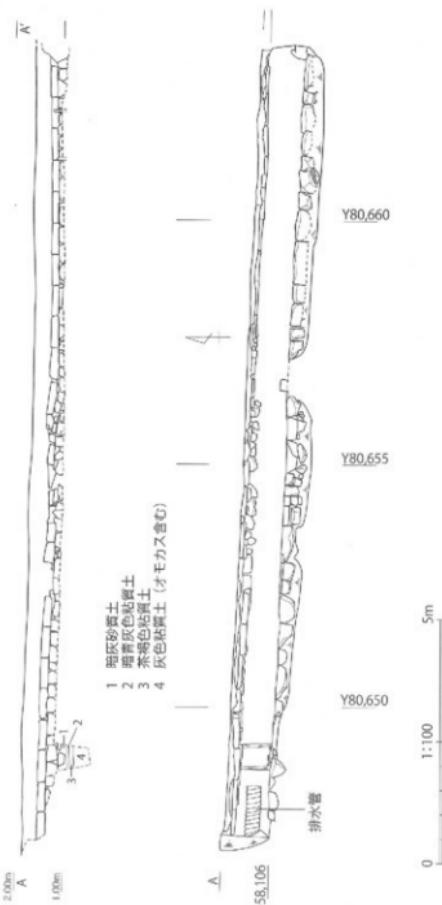
調査地は、(殿町353-1)で、下水道およびガス管理設工事に伴う調査である。範囲は、東西1.5m×南北1.0mと東西2.5m×南北1.0mの2区画で、深度1.2mである。

西端の下水管、ガス管の埋設箇所で側溝石垣の裏側を検出した。比較的大形の大海崎石を使用し、側壁を作り、その下部では根石と考えられる小礫が積まれているのを確認した。大海崎石の天端の標高は1.6mで、その上に2段にわたって来待石の切石ブロックが積まれ、側溝の嵩上げをおこなっている。嵩上げ後の標高は1.8mである。

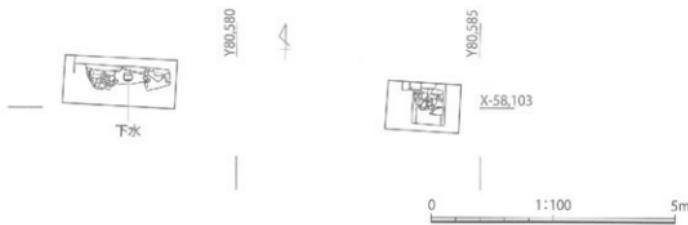
4.MJR31（第168図）

調査地は、(殿町358-1)で、下水道敷設工事に伴う調査である。交差点南東側の角地で、範囲は、東西1.5m×南北1.5mと東西1.5m×南北2.7mの2区画で、深度1.6mである。

既設側溝の両側で、石組水路を確認した。石組は、側溝コンクリートに接して、道路側の石組は南に面をもって、屋敷側の石組は北に面をもって組まれていた。石は10~30cm大のも



第166図 MJR01実測図 (1:100)



第167図 MJR19実測図 (1:100)



MJR31 北側石組検出状況



MJR31 南側石組検出状況

のが使用され、深さ1.0mまで、3~4段ほど組まれていた。側溝下部は大海崎石で作られ、上部は来待石の切石が使用されている。また、石組の裏込石が南北両面にあることが確認された。大海崎石の石組天端の標高は1.7mで、来待石によって嵩上げされた上面の標高は1.9mである。石組の下面是標高0.6mで、ここから石材を積み上げて構築されている。

5. MJR34（第169図）

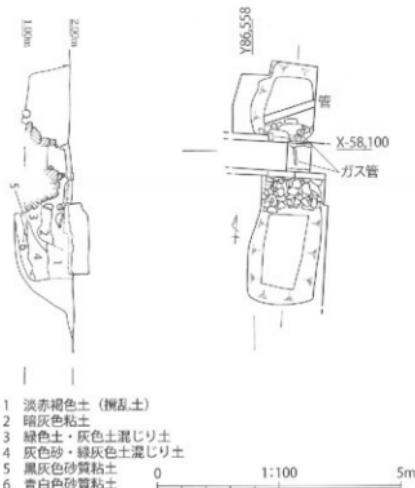
調査地は、（殿町355-1外）で、下水管引き込み工事に伴う調査である。範囲は、東西1.5m×南北3.5m×深度0.9mである。

地表面下で攪乱を受けた石を検出したが、石組水路の上部に積まれた石と推測される。図化したものはこの石を除去した後の2段目の石で、上面の標高は1.6mである。石は大海崎石が多く使用され、石組内には瓦などが含まれていた。石除去後の下の黒色砂層内で拳大の円礫を多数検出した。

6. MJR49（第170図）

調査地は、（殿町353-1外）で、既存水路コンクリートの撤去工事に伴う調査である。範囲は、東西8.0m×南北0.7m×深度0.6mである。

石組水路を検出した。石組は大海崎石を使用して積み上げられ、天端の標高は1.6mである。また、標高1.05mで炭化物層を確認した。



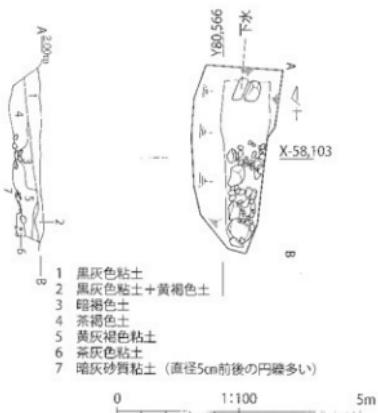
第168図 MJR31実測図 (1:100)

7. MJR132

調査地は、(殿町354-1外)で、電線共同管路掘削工事に伴う調査である。範囲は、東西2.6m×南北1.4m×深度1.23mである。

調査区中央の南北に汚水管が検出されたことから掘削が出来なくなり、掘削部の拡張を行った。拡張部は西側へ1.0m、北側に0.18mである。遺構は確認されなかった。

調査区南側に東西方向の帯状に延びる旧土層の一部を検出した。この旧土層から遺物が出土している。旧土層は、現歩道内北側（県道城山北公園線南沿い）では、ガス・水道管の樹方である深さ約1.2m前後で消失しているが、南側では部分的に残っているものと想定される。



第169図 MJR34実測図 (1:100)

8. MJR133

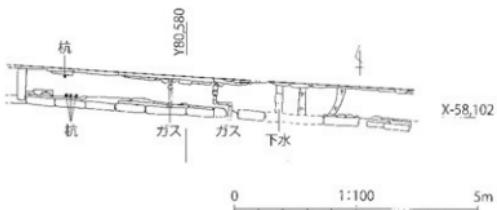
調査地は、(殿町352外)で、電線共同管路掘削工事に伴う調査である。一畠駐車場の北側に位置しており、範囲は、東西1.6m×南北1.4m×深度1.0mである。

調査区全体から埋戻しの真砂土が検出された。ガス管・水道管が、マンホールを迂回する形で埋設されていた。道路陥没を防止するため、南側を走るガス配管を確認後、掘削を終了した。

遺構・遺物は確認されなかった。

9. MJR134

調査地は、(殿町35)で、電線共同管路掘削工事の試験掘りに伴う調査である。範囲は、東西1.6m×南北1.0m×深度1.5mである。



第170図 MJR49実測図 (1:100)

水道管は、城山北公園線の道路南側サイド白線直下付近に埋設されているようである。現道路南縁は、水道管・ガス管の掘り方により、旧上層の大半が攪乱を受けていることが明らかとなった。

調査区南縁に南北幅0.3mの帯状の旧上層が東西に走っているのが確認された。北側はすべて埋戻しの真砂土である。旧上層は暗青灰色粘質土で道路面より0.5m下で検出されている。

遺構・遺物は確認されなかった。

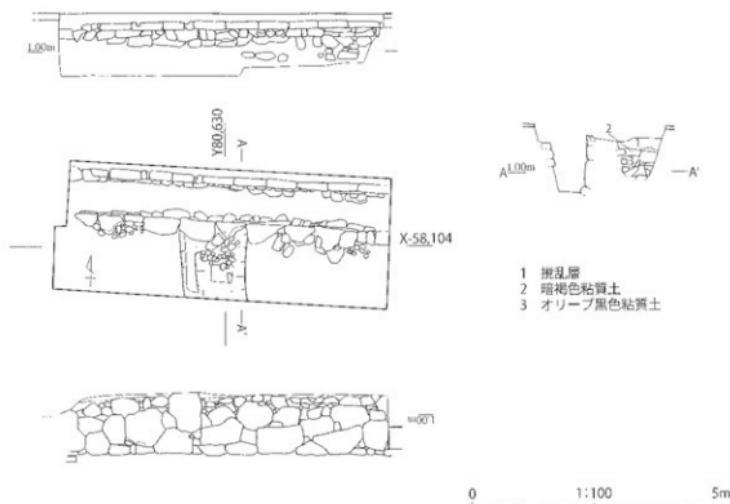
10. MJR179 (第171図)

調査地は、(母衣町36-1)で、遺跡確認調査である。県道城山北公園線の南側部分にあたり、範囲は、東西6.8m×南北2.7m×深度1.4mである。

道路面下0.2~0.3mで石組水路を検出した。南側の屋敷側の石組と北側の道路側の石組によって構成された幅60cm前後の石組水路で、現在の道路側溝を兼ねたものである。

屋敷側の石組は、天端石の標高1.8mを測り、石組の高さは平均1.2mである。比較的大形の大庭崎石を中心に組まれている。最下部は、一部を除いて拳大から人頭大前後の根石を詰めている。胴木はない。最上部の東から2個目の大石直下にスプーンが入っていた。後世に差し込まれたか、あるいは積み直しの際にに入ったものと思われる。石組裏側のトレンチ部分では、南から北に向かって斜めに掘り込んだ土層堆積がみられた。造成された土地を掘りこんで石組を築いたように見える。この石組は東西方向に他の石組(MJR181・182・180・175・176・177・178)とほぼ一直線状に並ぶ。

道路側の石組は、天端石の標高1.65mを測り、石組の高さは平均0.8mである。米待石(切り石)・玄武



第171図 MJR179実測図 (1:100)



MJR179



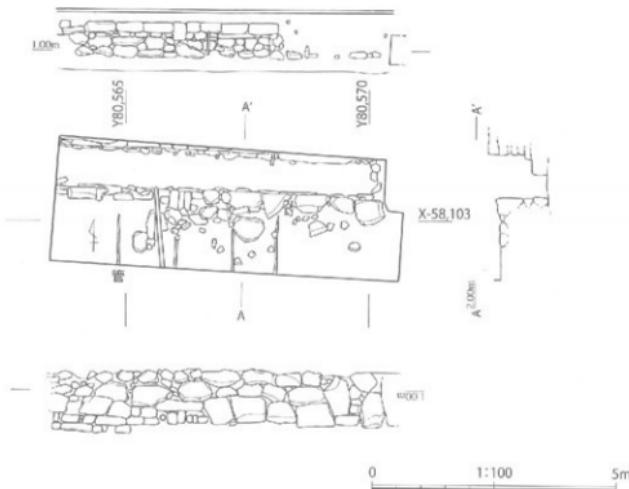
MJR179

岩・砂岩(来待石か)他で組まれている。最上部は、来待石(切り石)が並べられている。全体に崩落して欠けた部分が多い。石組の西側は、上から概ね三段を残すのみである。欠落していると思われる部分の石組直下を垂直に掘り下げ、その他の部分に検土杖で調べたが、石あるいは胴木は確認できなかった。最下部の石は、屋敷側の石組最下部より高い位置にある。

11. MJR180 (第172図)

調査地は、(母衣町36-1)で、遺跡確認調査である。県道城山北公園線の南側部分にあたり、範囲は、東西7.0m×南北2.4m×深度1.2mである。

道路面下0.2~0.25mで石組水路を検出した。南側の石組と北側の石組によって構成された、幅0.65m



第172図 MJR180実測図 (1 : 100)

前後の石組水路で、現在の道路側溝を兼ねたものである。

南側の屋敷側の石組は、天端石(大海崎石の部分)の標高1.7mを測り、石組の高さは平均1.1mである。比較的大型の大崎石を中心に組まれている。概ね三段に組まれ、最下部は根石となる。胴木はない。西側部分の天端石は来待石が並べられている。石組のほぼ中央で、南北長0.4m、東西長0.6mの大崎石の平石が検出された。平坦面を意識してここに配置したものであれば、屋敷門の可能性もある。この屋敷側の石組は東西方向に他の石組(MJR181・182・179・175・176・177・178)とほぼ一直線状に並ぶ。

道路側の石組は、天端石の標高1.7mを測り、石組の高さは平均0.7mである。上部二段は来待石の切り石を並べている。中間は玄武岩が目立つ。下部は大海崎石等を用いる。胴木はない。最下部の石は、屋敷側の石組最下部より高い位置にある。また、直径7~8cmの杭が約0.5mの間隔で、この最下部の石組に沿って打ち込まれていた。杭は断面四角形で先端加工されていることから、石組の補強のために行われた近代の工事による可能性が考えられる。

水路内から陶磁器片・瓦片が出土している。

12. MJR181 (第173図)

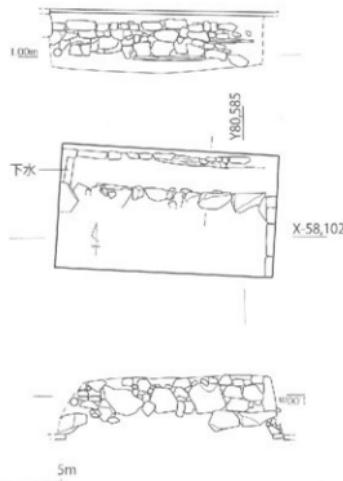
調査区は松江城下町遺跡(母衣町353-1)である。遺構確認のためのもので、県道城山北公園線の南側部分にあたる。東西4.5m×南北



MJR180



MJR181



第173図 MJR181実測図 (1:100)

北2.5m×深度1.3mである。

道路面下0.3mで石組水路を検出した。南側の屋敷側の石組と北側の道路側の石組によって構成された幅50cmの石組水路で、現在の道路側溝を兼ねたものである。

屋敷側の石組は、天端石の標高1.7mを測り、石組の高さは平均標高1.1mである。比較的大形の大海崎石を中心にはめられているが、最上部は後世の工事により積みなおした形跡が認められる。また、西端は下水管敷設のため全体に積みなおされていた。大小さまざまな石材を用いている。最下部の石は根石となっている。胸木はない。

道路側の石組は東西方向に他の石組(MJR181・182・180・175・176・177・178…西から東の順)とほぼ一直線状に並ぶ。

13. MJR182 (第174図)

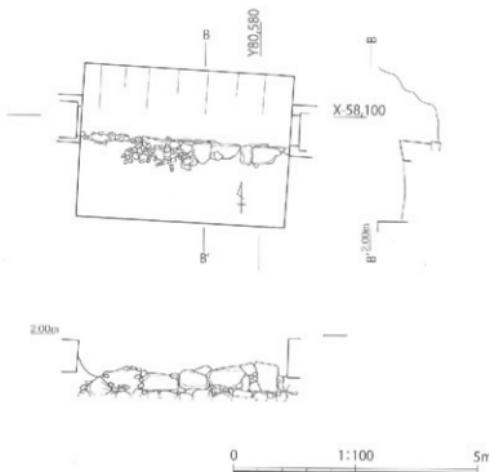
調査地は、(母衣町36-1外)で、マンホール設置工事に伴う調査である。県道城山北公園線の南側部分にあたり、範囲は、東西4.5m×南北3.2m×深度1.2mである。

この地点は、幅0.6m、高さ0.8mのコンクリート製の側溝が石組の上部に作られており、南壁は上部が抜き取られて、その下方2段ほどの石組が残されていた。一方の北壁は石組の痕跡すらなかった。

南壁の更に西側3分の1は、都市ガス本管の埋設のために、もう一段抜き取られていて、最下層の石組しか残っていないかった。検出した石組は、高さ最大0.8mで、隣接するMJR180の高さ1.2mと比較すると約一段分低い。検出した壁の長さは4.2m、幅は不明である。この石組は、これまで検出された石組と同様の大きさの石材で、石組みの方法にも大きな違いは認められない。ほぼ同時期に東西に続くしっかりした石組



MJR182



第174図 MJR182実測図 (1:100)

が作られていたものと思われる。

14. MJR196 (第175図)

調査地は、(母衣町35-4)で、マンホール埋設工事に伴う調査である。範囲は、東西7.22m×南北4.75m×深度3.0mである。

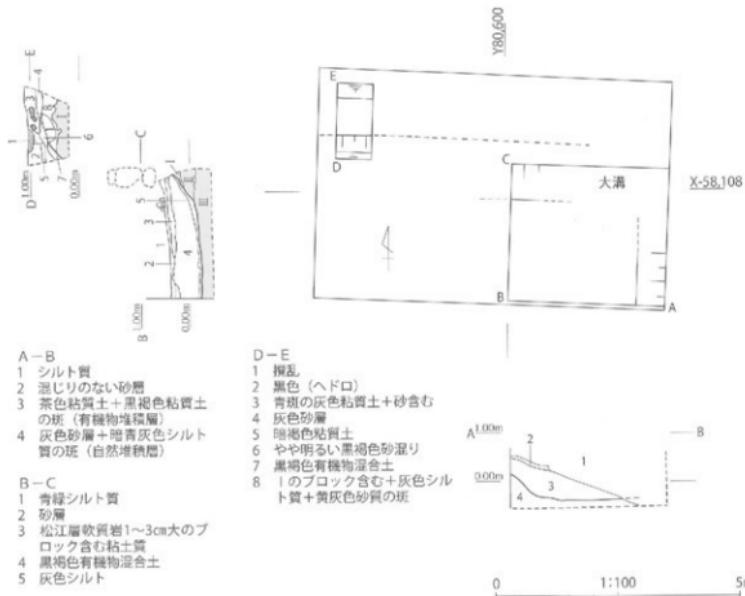
I層を標高0.2~0.5m間で検出した。II層を標高-0.1~0.2m間で検出した。場所によりさらに微細な粒子となる。標高-0.1m以下はIII層である。場所によりやや粗い粒子になる。

石組水路と、深掘りトレンチ内で素掘りの大溝を確認した。

石組水路は溝底を一部掘り下げる結果、屋敷側に野積みの石組が検出された。ただし、石組裏手から屋敷側全面に、路面から深さ1.0mにわたり建物基礎部の敷設により全面攪乱を受けていた。このこと



MJR196土層断面B-C



第175図 MJR196実測図 (1:100)

から石組が近代に積み直された可能性があることが判明した。

素掘りの大溝は、調査区をトレント状に深掘りした部分で確認した。調査区北西部の断面D-Eでは、標高0.6mの8層面から南へ下降する落込みを標高0.3mまで確認した。断面B-Cでは、県道城山北公園線側から南へ下降する落ち込みが検出された。自然堆積層（1～Ⅳ層）を掘り込んでいる。この落ち込みは標高0.35mから下り、最深部で標高-0.25mを測る。4層の黒褐色有機物混合土は大溝埋土で、木片・植物根等が混入している混合土である。埋土の最大厚は0.4m、掘り込み落差0.6mであった。南壁面では東西幅2.3m程だが、大溝の掘り込みラインが市道母衣南北線側から西へ下降するのが検出された。調査区東端部の掘り込み標高0.15m、最深部標高-0.5mを測る。ここでの黒褐色有機物混合土の最大厚は0.6m、掘り込み落差0.75mであった。これらのことから大溝は、市道母衣南北線側を始点として西へ向け掘り込まれていることが考えられる。さらに、南壁で検出した大溝は、西壁で検出した大溝よりも掘り込み最深部で0.25m深く、黒褐色有機物混合土の厚みで0.2m厚い。この南・西壁の大溝掘り込み検出状況の違いは、もう1本の大溝つまり市道母衣南北線に沿って南側へ向かう大溝の存在を示唆していると考えられる。

15. MJR210

調査地は、（母衣町193-1～殿町353-1）で、污水管理設工事に伴う調査である。範囲は東西47.5m×幅1.1m×深度2.2mである。

埋設工事は、歩道内に既に埋設されている電線共同溝と民家の間を壁が崩れないよう掘削前に矢板を両側に打ち込む方法で工事が行われた。そのため、土層の観察や遺構の検出は困難を極めた。また、既存の水道管、ガス管、排水管等の埋設工事により、上面はかなり攪乱されていた。

地表面下には0.5mほどの近代の搅乱層があり、地表面下1.4mまで造成土が堆積し、以下、自然堆積層となっている。搅乱層と自然堆積層の間、厚み0.9mほどの暗褐色シルト質の粘質土層で遺物が出土しており、一部黒褐色の砂質土層中からは集中して遺物が検出された場所があった。

地表面下0.4mほどのところで、人頭大の川原石状の丸石を使用した石列が2ヶ所で確認された。いずれも近代のもので、おそらく明治期以後の造作であろう。地表面下0.9mのところで遺物が集中して検出された地点があった。その部分だけ埋土が黒褐色で木材等も混在していることから、おそらく江戸時代の



MJR210



MJR210 土層断面

ゴミ土坑のようなものがあったと思われる。

採取した遺物は17世紀中頃のものが多く、松江城方向に行くに従って遺物が増えている。

16. MJR211

調査地は、(殿町353-1)で、電線共同埋設用マンホールの掘削工事に伴う調査である。範囲は東西4.5m×南北3.2m×深度2.8mである。

地表面直下で石組水路が検出されたので、平成20年度にMJR182として調査を実施した。この時点では、石組水路の北側は全く水路としての痕跡がなく、南側は上部が抜き取られて下方2段ほどの石組が残っていたが、一部は2段目まで抜き取られて最下層の石組しか残っていない場所もあった。掘削を始めてもなく、南側の矢板付近でつい近年に廃棄されたと見られる井戸が検出された。

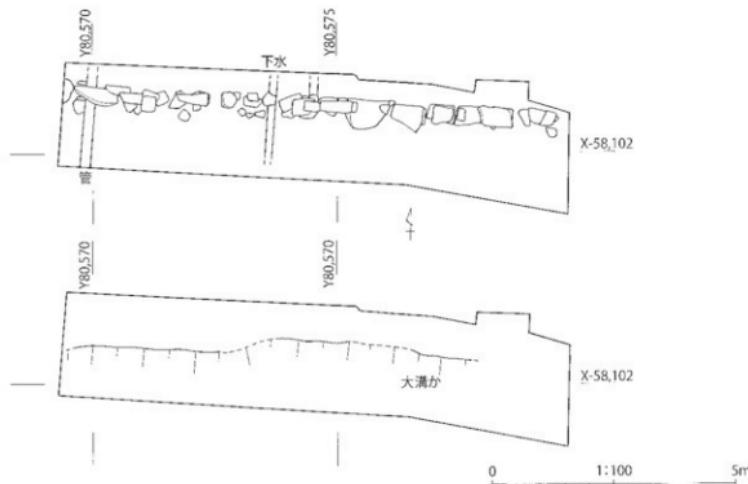
また、素掘りの大溝と思われる落ち込みを検出した。平成21年度の周辺の発掘調査や立会調査で東西にはほぼ直線的に掘られた素掘りの大溝が発見されているが、これにつながるものと思われる。溝の検出幅は1.9mを測る。

17. MJR241 (第176図)

調査地は、(殿町353-1外)で、歩道下電線共同溝埋設工事に伴う調査である。範囲は東西10.4m×南北2.0m×深度2.8mである。

調査地南側には矢板が残っている。U字側溝の現水路の南側と矢板の間に石組水路が残っていたので、工事の進捗に合わせて測量を行い現状の記録を行った。

石組は30~40cm程度で、石組水路の石としては比較的小ぶりで少なくとも2段程度が残存していた



第176図 MJR241実測図 (1:100)

が、宅地にガス管・水道管を引き込む際に撤去されたり、現道路側溝の設置工事の際に壊されたりしており、遺存状態は非常に悪かった。

また、標高0.6mで南に向かう落込みを検出した。東西方向の素掘りの大溝の可能性がある。

18. MJR249

調査地は、(母衣町80-3外)で、電線共同溝掘削工事に伴う調査である。交差点南側市道部分にあたり、範囲は東西9.2~11.7m×南北1.7~2.7m×深度2.4mである。

道路面下1.0m前後まで暗渠設置による擾乱を受けている。東側はMJR247で石列を検出済みである。西側には何かの基礎と思われる1.0m方形のコンクリート塊があり、これらコンクリート塊と真砂土のみで、石組水路の痕跡すら確認できなかった。道路面下(側溝の蓋上面から)1.45mで西側に落ち込む黒褐色粘質土を検出した。

遺物は出土していない。



MJR241 石組検出状況



MJR249 土層断面

19. MJR251 (第177図)

調査地は、(殿町353-1外)で、仮排水管を設置するための既存コンクリート側溝撤去工事に伴う調査である。範囲は東西12.3m×南北0.65~0.9m×深度0.7mである。

水道管、ガス管などの管路と現側溝設置のために全体に擾乱されている。標高1.58mで来待石1個、標高1.4mから大海崎石2個を検出するが、元の位置から動いているものと考えられる。

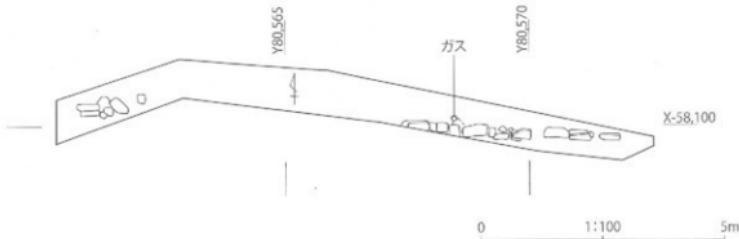
20. MJR252 (第178図)

調査地は、(殿町353-1外)で、電線共同溝掘削工事に伴う調査である。範囲は東西7.3m×南北1.4m×深度2.1mである。

MJR251の南側に隣接し、平成22・23年度に調査したMJR211(MJR182)と一部が重複している。以前の調査では、石組水路は西側ではほとんど崩れていたが、本地点は比較的よく残っており、一段目は来待石だが2~3段目は、すこし小ぶりの大海崎石が使用されていた。標高0.5m前後で、先のMJR211の調査で発見されていた素掘りの大溝が南に下っていく痕跡が検出された。



MJR251



第177図 MJR251実測図 (1:100)

21. MJR253

調査地は、(般町352)で、既存側溝撤去工事に伴う調査である。範囲は東西7.5m×南北1.3m×深度1.7mである。

MJR251とMJR252の間にある既設の排水溝を撤去し、改めて排水溝を設置するために掘削を行ったものである。

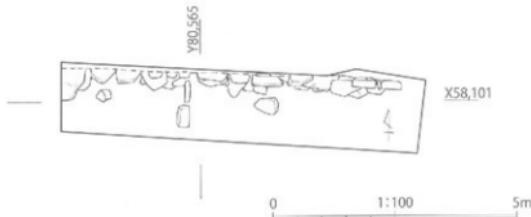
数個の石組水路に使用したと思われる石材を検出したが、石の間にキセル等とともにビニール片もあり、すでに搅乱を受けているものと考えられる。また、1層を標高0.36mで検出した。



MJR252

22. MJR257

調査地は、(母衣町37-7)で、平成21年度に調査を行ったMJR182と平成22年度に調査を行ったMJR211に隣接する電線共同溝およびマンホール設置工事に伴う調査である。範囲は東西4.0m×南北2.3m×深度



第178図 MJR252実測図 (1:100)

2.3mである。

石組水路の屋敷側の裏込部分を削るように掘り下げているので、石組水路はコンクリートの側溝の基礎として残ったままである。掘削部分には、大きなコンクリート塊や土嚢袋等が埋まっており、何かの工事で搅乱されているようであった。



MJR253

表115 第4ブロック立会調査一覧

| 種別 | 開発区 名 | 道路名 | 調査日 | 調査 箇所 (rl) | 高幅×延幅 (m) | 深さ (m) | 勘 察 | 検出遺構 | 調査体制 | 調査 担当者 |
|----|-------------------------|--------------|-----------------------|--------------------------------|--------------|--------------------|--------|------|---------------------------|-----------|
| 1 | MJR101 +呉町 35-4 | 梅木町 35-4 | 08.05.22 ~09.26 | 2.1.5 東西16.5×南北1.3 | 0.3 | 既存水路の コンクリート裏込 | | | 松江市教育委員会 文化財課 | — |
| 2 | MJR116 +呉町 36-1付 | | 08.12.12 | 7.7 東西4.5×南北1.7 | 1.0 | 既新削設 | | | | — |
| 3 | MJR119 +2号町 35-1付 | 駒町 | 07.03.02 | 4.0 東西1.5×南北1.0 東西2.5×南北1.0 | 1.2 | 下水道及び ガス管確認 | | | | — |
| 4 | MJR131 +呉町 36-1 | 駒町 | 07.05.11 ~07.05.15 | 6.2 東西1.5×南北1.5 南北2.7×東西1.5 | 1.6 | 下水警戒設 | 石垣 | | | — |
| 5 | MJR132 +呉町 35-1 | 駒町 | 07.05.18 | 5.2 南北2.5×東西1.5 | 0.8 | 下水警戒込 | | | | — |
| 6 | MJR149 +呉町 35-1付 | 駒町 | 07.07.23 | 5.6 東西8.0×南北0.7 | 0.8 | 既存水路の コンクリート裏込 | | | | — |
| 7 | MJR152 +2号町 35-1付 | 駒町 | 08.02.02 | 3.6 東西2.8×南北1.4 | 1.2 | 電線共同管路 試験掘削 | | | (財)松江市教育文化振興事業団 歴史文化財課 | 桂原 |
| 8 | MJR133 +呉町 35-2付 | 駒町 | 08.02.02 | 2.2 東西1.6×南北1.4 | 1.0 | 既新共同管路 試験掘削 | | | | — |
| 9 | MJR134 +呉町 35-2 | 駒町 | 08.02.04 | 1.6 南北1.6×南北1.0 | 1.5 | 電線共同管路 試験掘削 | | | | — |
| 10 | MJR170 +呉町 36-1付 | 梅木町 36-1付 | 08.05.16 ~08.10.35 | 17.4 東西5.8×南北2.7 | 1.4 | 電線確認調査 | 石垣 | | | 石井 |
| 11 | MJR160 +呉町 35-4 | 梅木町 35-4 | 08.08.14 ~09.10.21 | 16.8 東西7.0×南北2.4 | 1.2 | 追跡確認調査 | 石垣 | | | 中尾 |
| 12 | MJR161 +呉町 35-1 | 梅木町 35-1 | 08.08.20 ~09.10.01 | 11.2 東西4.5×南北2.6 | 1.3 | 追跡確認調査 | | | | 石井 |
| 13 | MJR182 +呉町 36-1付 | 梅木町 36-1付 | 08.08.30 ~08.10.06 | 14.4 東西4.5×南北2.2 | 1.2 | アンホール検査 (DTS2) | | | | 中尾 |
| 14 | MJR166 +呉町 35-4 | 梅木町 35-4 | 08.02.23 ~10.02.27 | 34.3 東西7.2×南北4.8 | 3.0 | アンホール (DTS2) | | | | 袖原 |
| 15 | MJR210 +呉町 35-1付 | 梅木町 35-1付 | 09.05.17 ~10.07.16 | 522.5 東西475×幅1.1 | 2.2 ~1.8 | 污水警戒込 | | | | 中尾 |
| 16 | MJR211 +呉町 35-1 | 梅木町 35-1 | 09.08.10 ~10.08.17 | 14.4 東西4.5×南北3.2 | 2.8 | アンホール (DTS2) | | | | — |
| 17 | MJR241 +呉町 35-1付 | 梅木町 35-1付 | 11.07.28 ~11.08.03 | 20.8 東西1.0×南北2.0 | 2.8 | 既新共同管 | | | | — |
| 18 | MJR243 +呉町 36-2付 | 梅木町 36-2付 | 11.09.23 ~11.10.04 | 31.6 東西9.2~11.7 ~南北1.7~2.7 | 0.9 | 電線共同管 →2.4種造物除去 | | | | — |
| 19 | MJR251 +呉町 35-1付 | 梅木町 35-1付 | 11.10.03 ~11.10.04 | 11.1 南北12.3 ~南北4.0~7~9 | 0.7 | 既新水路警戒 | | | | — |
| 20 | MJR252 # | | 11.10.06 ~11.10.11 | 10.2 東西1.3×南北1.4 | 1.2 ~2.1 | 電線共同管 | | | | — |
| 21 | MJR253 +呉町 35-2 | 梅木町 35-2 | 11.10.18 ~11.10.20 | 9.8 東西7.5×南北1.3 | 1.7 | 既新水路(既存剖面) 調査 | | | | — |
| 22 | MJR257 +呉町 37-7 | 梅木町 37-7 | 11.11.28 ~11.12.13 | 9.2 東西4.0×南北2.3 | 2.2 | 電線共同管 マンホール | | | | — |

第4節 立会調査のまとめ

本報告書では56ヶ所の立会調査について報告した。調査地は、電線共同溝や上・下水道管・ガス管工事など、県道城山北公園線に沿うものが多く、道路を横断するものもあった。工事立会という性質上、限られた調査範囲と時間内での調査であり、検出された遺構も部分的な調査に止まり、時期の特定も難しいものがほとんどであった。そのような制約の多い中での調査ではあったが、城下町遺跡を考察するうえでの貴重な資料を得ることができた。特に、側溝石垣と素掘りの大溝については、本調査では現道路下（歩道を含む）や掘下げ安全勾配によって調査できない部分に存在することから、立会調査において検出されるこれらの遺構の規模や構造等の把握が、城下町遺跡の検討にあたり、重要な意義をもつものであると考えられる。

確認された側溝石垣と素掘りの大溝については、本調査区と合わせて第179図に示した。

側溝石垣、素掘りの大溝とも、主軸は東西方向がN-87°~86°-W、南北方向がN-3°~4°-Eと城下町の町割りの軸に合致するものである。また、立会調査では側溝石垣の下または近くで素掘りの大溝が検出されることから、この2つの遺構には相関関係があることが予想される。町割りの区画として掘削された大溝を基準として側溝石垣が設置された可能性が考えられる。

側溝石垣は、現道路側溝に付随して検出される江戸時代の石組水路である。第1ブロックで1ヶ所、第3ブロックで8ヶ所、第4ブロックで14ヶ所が確認された（重複を含む）。

屋敷側の石垣は、比較的大型の大海崎石を主に使用している。積み方は深い位置から強固に積まれ、道路側に面をも



第179図 立会調査で確認された側溝石垣と素掘りの大溝 (1:1,500)

つ。対する道路側の石垣は石材も島石、大海崎石など多様で、比較的小型の石を使用している。積み方も屋敷側の石垣と比べると難な印象を受けるものが多い。MJR188と本調査3-2a区では、道路側溝から屋敷側で、屋敷内に向かって面をもつ石列が検出された。本来の側溝石垣とは異なる性格が推測される。同様の石列は本調査でも検出されている（3-1区石列1～3）。

第4ブロックの中央東寄りのMJR179・180では約1.5m北に寄っており、道幅は9.05mと推測される。東角のMJR01では元の延長上に石垣が位置している。MJR179・180での北寄りに作られる理由としては、もともとの屋敷地割に基づくものと、改変によるものと考えられるが、石垣の状態は、MJR01やMJR181と同じようにしっかりしたもので、上面の来待石（明治以降）の積み直しが行われたものと思われるが、構築当初の形を残しているものと考えられる。MJR179では造成された土地を掘込んで石垣が築かれた可能性があり、江戸時代のある時期に屋敷北側への拡張に伴って石垣を作り直した可能性も考えられる。

第3ブロックMJR217の屋敷側石垣から第4ブロックMJR181の屋敷側石垣までと、第3ブロック本調査3-1区の屋敷側石垣から第4ブロックMJR252の屋敷側石垣までは11.25mを測る。側溝幅が片側0.6mあることから、江戸時代の道路幅は10.05mと推測される。現在、第3ブロックと第4ブロック間の城山北公園線の道路幅は、9.50mと狭くなっているが、これは側溝部分を歩道として拡幅したためで、歩道を含めた幅は12.0mと江戸時代と大きな相違はないものといえる。

素掘りの大溝は、城下町造成時の排水を兼ねた町割りを形成する最初の段階で掘られる溝である。南北方向と東西方向の溝が確認された。南北溝は、第3ブロックの東角に位置するMJR240と本調査3-4区、西側に位置するMJR168・188と本調査3-1区、第4ブロックの東側MJR196で確認された。また、東西溝は、第3ブロックの本調査3-3区、3-4区、3-5区と第4ブロックの東角に位置するMJR196で確認された。部分的な確認からではあるが、屋敷を区画する道路に沿って掘削していることが推察される。

註

¹ 「松江歴史解」顧問：青岡弘行氏のご教示による。

² 鉄の球を戴えて地中に埋める祈祷法については、宮永雄太郎『神道秘密集』八幡書店1989年、村田あが「匠家故実録」に見る建築儀礼」『跡見学園女子短期大学部紀要』36 2000年に記述が見られる。

第5章 立会調査の結果

表116 第1ブロック立会 出土遺物一覧表

| 調査区 | 合計 | 陶器 | 磁器 | 土師器 | 土製品 | 土器 | 木質 遺物 | 瓦 | 金属 製品 | 石 製品 | 動物 遺存体 | 自然 遺物 | その他 |
|--------|----|-------|------|-----|-----|----|----------|-----|----------|---------|-----------|----------|-----|
| MJR79 | 点数 | 24 | 21 | | | | | 2 | | | | | 1 |
| | 重量 | 6715 | 6340 | | | | | 345 | | | | | 30 |
| MJR183 | 点数 | 57 | 19 | 16 | | 1 | | 6 | 1 | | | | 14 |
| | 重量 | 2488 | 1336 | 197 | | | 11 | 413 | 108 | | | | 423 |
| MJR187 | 点数 | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| | 重量 | 63 | 60 | 3 | | | | | | | | | |
| MJR190 | 点数 | 2 | 2 | | | | | | | | | | |
| | 重量 | 33 | 33 | | | | | | | | | | |
| MJR208 | 点数 | 2 | 2 | | | | | | | | | | |
| | 重量 | 205 | 205 | | | | | | | | | | |
| MJR209 | 点数 | 12 | 2 | | 1 | | | 7 | | | 1 | | 1 |
| | 重量 | 1047 | 107 | | 11 | | | 908 | | | 14 | | 7 |
| 合計 | 点数 | 99 | 47 | 17 | 1 | 0 | 1 | 0 | 15 | 1 | 0 | 1 | 16 |
| | 重量 | 10551 | 8081 | 200 | 11 | 0 | 11 | 0 | 1666 | 108 | 0 | 14 | 0 |

表117 第3ブロック立会 出土遺物一覧表

| 調査区 | 合計 | 陶器 | 磁器 | 土師器 | 土製品 | 土器 | 木質 遺物 | 瓦 | 金属 製品 | 石 製品 | 動物 遺存体 | 自然 遺物 | その他 |
|--------|----|-------|-------|------|-----|-----|----------|------|----------|---------|-----------|----------|-----|
| MJR212 | 点数 | 12 | 8 | 3 | | | 1 | | | | | | |
| | 重量 | 1346 | 1064 | 183 | | | 99 | | | | | | |
| MJR214 | 点数 | 59 | 16 | 14 | | | 2 | 1 | 20 | | 1 | | 5 |
| | 重量 | 7808 | 2129 | 613 | | | 54 | 373 | 4256 | | 9 | | 374 |
| MJR215 | 点数 | 201 | 53 | 32 | 7 | 5 | | | 100 | 1 | | | 3 |
| | 重量 | 18007 | 5731 | 1271 | 121 | 345 | | | 10453 | 14 | | | 72 |
| MJR217 | 点数 | 22 | 2 | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| | 重量 | 2624 | 1817 | 5 | | | 105 | | | | | | 77 |
| MJR219 | 点数 | 20 | 4 | 4 | | | | | | | 12 | | |
| | 重量 | 2685 | 234 | 195 | | | | | | | 2256 | | |
| MJR220 | 点数 | 27 | 8 | 3 | 1 | | | | 14 | 1 | | | |
| | 重量 | 3219 | 214 | 60 | 4 | | | 2940 | 1 | | | | |
| MJR240 | 点数 | 140 | 53 | 36 | 2 | | 4 | 1 | 28 | | 1 | | 15 |
| | 重量 | 15797 | 4619 | 1641 | 329 | | 109 | 8 | 8773 | | 3 | | 315 |
| MJR214 | 点数 | 14 | 5 | 6 | | | 1 | | | | | | |
| MJR215 | | | | | | | | | | | | | |
| MJR217 | | | | | | | | | | | | | |
| MJR220 | 重量 | 1554 | 580 | 656 | | | 48 | | 270 | | | | |
| 合計 | 点数 | 495 | 149 | 99 | 10 | 5 | 9 | 2 | 192 | 2 | 0 | 2 | 0 |
| | 重量 | 53040 | 16358 | 4824 | 454 | 345 | 415 | 381 | 29568 | 15 | 0 | 12 | 0 |

表118 第4ブロック立会 出土遺物一覧表

| 調査区 | 合計 | 陶器 | 磁器 | 土師器 | 土製品 | 土器 | 木質 遺物 | 瓦 | 金属 製品 | 石 製品 | 動物 遺存体 | 自然 遺物 | その他 |
|-------------------|----|-------|-------|------|-----|-----|----------|------|----------|---------|-----------|----------|-----|
| MJR01 | 点数 | 5 | 4 | 1 | | | | | | | | | |
| | 重量 | 126 | 78 | 48 | | | | | | | | | |
| MJR31 | 点数 | 55 | 35 | 15 | 3 | | | | 1 | | | | 1 |
| | 重量 | 5039 | 4674 | 275 | 11 | | | | 78 | | | | 1 |
| MJR34 | 点数 | 6 | 2 | 1 | 2 | 1 | | | | | | | |
| | 重量 | 844 | 120 | 3 | 11 | 710 | | | | | | | |
| MJR179 | 点数 | 50 | 11 | 4 | 21 | | 4 | 1 | 7 | | 1 | | 1 |
| | 重量 | 1081 | 308 | 79 | 17 | | 60 | 20 | 551 | | 2 | | 24 |
| MJR179 ～MJR180 | 点数 | 3 | | | | | | | 3 | | | | |
| | 重量 | 73 | | | | | | | 73 | | | | |
| MJR180 | 点数 | 65 | 28 | 30 | 1 | | 1 | | 1 | | 2 | | 2 |
| | 重量 | 1717 | 1085 | 490 | 3 | | 55 | | 60 | | 5 | | 19 |
| MJR181 | 点数 | 21 | 9 | 9 | | | 1 | | | 1 | 1 | | |
| | 重量 | 480 | 242 | 114 | | | 14 | | | 106 | 4 | | |
| MJR182 | 点数 | 15 | 11 | 4 | | | | | | | | | |
| | 重量 | 950 | 717 | 233 | | | | | | | | | |
| MJR211 | 点数 | 7 | 1 | 5 | 1 | | | | | | | | |
| | 重量 | 162 | 40 | 82 | 40 | | | | | | | | |
| MJR241 | 点数 | 11 | 7 | 3 | | | | | 1 | | | | |
| | 重量 | 294 | 110 | 121 | | | | | 63 | | | | |
| MJR252 | 点数 | 170 | 32 | 85 | | | 1 | | 9 | 2 | 4 | | 34 |
| | 重量 | 5489 | 2387 | 1908 | | | 48 | | 824 | 17 | 76 | | 229 |
| MJR253 | 点数 | 26 | 8 | 6 | 1 | | | 1 | 1 | | 2 | | 7 |
| | 重量 | 690 | 409 | 47 | 7 | | | 4 | 86 | | 2 | | 135 |
| MJR329 | 点数 | 120 | 21 | 8 | 2 | | | 67 | 6 | 1 | 12 | 1 | 2 |
| | 重量 | 7414 | 2401 | 270 | 14 | | | 3550 | 1025 | 26 | 71 | 6 | 51 |
| 合計 | 点数 | 554 | 169 | 174 | 31 | 1 | 7 | 72 | 26 | 3 | 1 | 22 | 47 |
| | 重量 | 24359 | 12571 | 3670 | 103 | 710 | 197 | 3647 | 2627 | 43 | 106 | 160 | 459 |

第6章 自然科学分析

松江城下町遺跡出土の動物遺存体

石丸恵利子（熊本大学埋蔵文化財調査センター）

1. はじめに

松江城下町遺跡は、島根県松江市に所在する松江城周辺に建設された江戸時代の城下町跡である。当時の動物資源利用の様相をうかがうことができる動物遺存体資料として、殿町279番地外（松江歴史館）から出土したサザエやヤマトシジミなどの貝類、スズキやマダイなどの魚類、カモ類やキジ科などの鳥類、イヌやニホンジカなどの哺乳類が報告されている（石丸・江田2011）。

平成18～24年にかけて調査された、松江城下町遺跡1-1区、3-2区、3-3区、3-4区から動物遺存体が出土したので、本稿においてその内容について報告する。出土した動物相は、貝類14種、魚類3種、鳥類4種、哺乳類4種の計25分類群であり（表119）、各資料の同定結果及び観察事項は一覧表に示した（表120～122）。また、出土動物遺存体の様相から、各調査地点での動物資源利用について考察した。

2. 動物遺存体の概要

1-1区出土資料

1-1区では、貝類、魚類、鳥類が確認された。土坑SK07（17世紀前葉）より、マダイの主鰓蓋骨と不完全神經間棘およびキジ科の足根中足骨が出土し、また第1面包含層（幕末期）のごみ穴で不明鳥類の四肢骨骨幹部破片が、遺構外（時期不明）でサルボウが出上している。マダイの主鰓蓋骨には、解体痕が認められた。キジ科の足根中足骨には蹠爪が確認でき、オスであることがわかる。なお、SK07は、17世紀前葉の堀尾期の土坑と考えられ、大鉢附や飽脣の多量廃棄を伴い、付近に大工関係の工房の存在を窺わせる特徴的な土坑である。

3-2区出土資料

3-2区においても、貝類、魚類、鳥類が確認された。第1面のSK01（19世紀半ば～明治初め）より、大型個体でマダイと考えられる腹鰓棘と椎骨（尾椎）が出土している。椎骨には、棘部分が切断された状態の解体痕が認められた。また、近現代の遺構（水路・木橋）より、ヤマトシジミ、マダイ亜科の第1血管間棘と第1・2脊鰓棘、ニワトリと考えられる大脛骨が出土している。また、時期は不明であるが、遺構外の包含層よりサザエの殻軸破片とカモ科（オナガガモ大）の上腕骨を確認することができた。

3-3区出土資料

3-3区では、報告する4調査地点のうち、最も多くの動物遺存体が出土しており、動物相も貝類、魚類、鳥類、哺乳類の多様な種類を確認することができた。第1面（17世紀半ば～後半代）においては、

SK01、SK02、SK03、礫敷1および礫敷2から貝類、鳥類、哺乳類が出土している。SK01では、貝類はマガキ、テングニシ、イタヤガイと、ニワトリの上腕骨、イヌの肋骨と考えられる資料が出土している。SK03では、テングニシとサザエが確認され、SK02からは、イヌとイノシシのみが確認された。イヌの下顎骨は、歯が抜け落ちた下顎体のみの破片で、そのほかに上顎犬歯と寛骨の脛骨部分の破片各1点と腰椎2点が確認された。イノシシは、上顎骨、下顎骨、上腕骨や大腿骨などの四肢骨、寛骨、環椎（第一頸椎）など多くの部位が確認できるが、最小個体数は1個体であった。左右がそろっており、大きさも類似することから、同一個体のものと考えられる。イヌ、イノシシともに解体痕は確認できなかった。さらに、礫敷1では、同一個体と考えられるイヌの頭蓋骨と下顎骨および環椎から第4頸椎までの頸部までの部位と、イノシシの桡骨が出土し、礫敷2では、キジ科の上腕骨、イヌの肋骨、海生哺乳類の指骨が出土している。イヌの肋骨と海生哺乳類の指骨には解体痕が観察された。

また、第2面（17世紀前半代）においては、貝溜りで複数のヤマトシジミが出土し、包含層内からサザエが確認された。また、SK05、SX01、SX02より貝類、魚類、鳥類、哺乳類が出土している。SK05では、イヌの大腿骨と脛骨、腓骨が確認され、SX02では、ヤマトシジミとキジ科と考えられる脛足根骨が出土している。SX01では、貝類はヤマトシジミが多く出土し、フナ属の主鰓蓋骨、サギ科の足根中足骨が確認され、さらに哺乳類はイヌの肩甲骨、桡骨、尺骨、寛骨などの複数部位と、ネコの上腕骨が出土している。解体痕のある資料が多く、イヌの尺骨、寛骨、胸椎とサギ科の足根中足骨で確認することができた。

その他、遺構以外の包含層（近現代、不明）においても、ハマグリ、サルボウ、アワビ、ヤマトシジミなどの貝類や、スズキの骨格、キジ科の上腕骨やニワトリの足根中足骨、イヌの下顎骨や大腿骨などが確認された。また、17世紀後半代以降の包含層より、ニホンアシカと考えられる上腕骨が出土している点が特筆され、複数個所に解体痕を確認することができた。

3-4区出土資料

3-4区では、第1面のSK01（19世紀前半代）より貝類と鳥類が出土している。貝類は、多様な種類が認められ、巻貝では、アワビ類、オオコシダカガンガラ、サザエ（殻体と蓋）、ウミニナ、テングニシが、また二枚貝では、サルボウガイ、ヤマトシジミ、ハマグリ、イガイ、ムラサキインコ、イタヤガイ、イワガキが出土している。サザエは、ほぼすべての資料が棘のある個体であった。イタヤガイとムラサキインコ各1点に火を受けた痕跡を確認することができた。甲殻類としてフジツボも出土している。鳥類は、キジ科の足根中足骨1点、カモ科の模様と手根中手骨が確認された。キジ科の足根中足骨には蹠爪が形成されており、オスであることがわかる。カモ科はヒシクイ大の個体である。また、第2面の包含層（17世紀後半から19世紀初頭）からはサルボウが出土している。

3.まとめ

前述の各調査地点は、調査範囲の差はあるものの、貝類、魚類、鳥類、哺乳類の4分類群のうち、貝類と鳥類は4地点すべてで出土しており、魚類は3-4区以外の3地点で、また哺乳類は3-3区のみで出土が確認された。これらの出土量や分布からは、当時貝類は積極的に利用された動物資源のひとつであり、鳥類

についても出土量は多くはないものの身近な資源のひとつであったことが読みとれる。ただし、調査において微細な資料が見落とされている可能性や資料の残存条件も考慮すると、魚類については過小評価されているであろう点は否定できない。

各分類群の特徴を見てみると、貝類で最も多く確認されたのはヤマトシジミであり、サザエ、ハマグリがそれに次ぐ。魚類は、タイ科が主体を占め、その多くは大型個体でありマダイだと判断できる。鳥類は、キジもしくはヤマドリにニワトリを含むキジ科が最も多く、カモ科がそれに次ぐ。哺乳類はイヌとイノシシが資料数としてはほぼ同量出土しているが、イノシシは一遺構のみの出土で同一個体と考えられるものである。一方、イヌは複数の遺構で確認することができ、複数個体の存在が指摘できることから、利用頻度の高い哺乳類のひとつであった状況がうかがえる。また、解体痕の存在によって、食料資源として利用された可能性が指摘できるが、肋骨、尺骨、寛骨、胸椎などの複数部位で解体痕が観察されている。なお、ニホンアシカと考えられる資料が複数点出土していることは注目すべき点である。現在は絶滅危惧種となっている二ホンアシカも、周辺の遺跡出土例としては、鳥取県の青谷・上寺地遺跡（弥生時代）や山口県の綾羅木郷遺跡（弥生時代前期）で、また九州地方においては、福岡県の博多遺跡群（中～近世）や岐志元村遺跡（縄文後～晩期）、佐賀県の東名遺跡（縄文早期）や菜畑遺跡（縄文前期～後期）、長崎県の佐賀貝塚（縄文中期～後期）や原の辻遺跡（弥生中～後期）などの複数遺跡で報告されている。南限としては、麦之浦貝塚（縄文後期）や柊原貝塚（縄文後～晩期）などの鹿児島県に位置する遺跡においても出土が確認されており、かつてはニホンアシカが広く生息していた状況を知ることができる。

なお、ニホンジカは1点も確認することができなかったが、殿町279番地外（松江歴史館）では最も多く出土している種であった。また、イヌの出土量も少量であった。これらのことから、城下町における屋敷地によって資源利用の差異あるいは偏りがあったことが示唆される。

また、解体痕は、魚類、鳥類、哺乳類のいずれの種においても確認されている。魚類では主鰓蓋骨と椎骨に認められ、主鰓蓋骨は内臓部分を取り除く際に付いたものと推測され、椎骨においては、尾部の小分けの際や骨から身を下ろす際に付いたものと考えられる。鳥類では、サギ科の足根中足骨とニワトリと考えられる上腕骨に認められ、関節を外すあるいは骨から筋肉や皮部分を外す際に付いたものと考えられる。また哺乳類ではイヌの肋骨や寛骨などに観察され、肋骨では椎骨と肋骨が接する部分が鋭く切断されたものであり、寛骨は寛骨臼の周りや坐骨の上方稜部に認められ、大腿骨を外したり皮や筋肉を外す際に付いたものと推測される。尺骨に残る痕跡は、目的が不明であるが、骨幹部中央付近の外側面に長軸に対して垂直方向に複数の切傷痕が観察されるものであった。ただし、3-3区SK02出土のイヌには解体痕が確認されておらず、同一種においても埋葬方が異なる可能性があり、今後形態や個体の大きさなどを考慮した詳細な比較検討を行う必要がある。また、ニホンアシカと考えられる個体にも解体痕が観察され、遠位端の滑車部分、遠位部の内面および外側面、前方面などの複数箇所で確認することができた。鋭い刃物で長軸に対して垂直に傷がつけられたものや、刃物をたたきつけることによって削られた状態のものが確認できる。アシカも有用な資源として利用されたことが読み取れる。アシカの利用方法については、『和漢三才図会』に「肉は食用に適さず油を煎り取った」と記されており、油や皮の利用が推測される（島田ほか訳1987）。

さらに、出土傾向に注目すると、検出された土坑数が多い3-3区では、第1面（17世紀半ば～後半代）においても第2面（17世紀前半代）においても、貝類や哺乳類のみが出土する上坑や貝類、魚類、哺乳類などの複数の種類が出土する土坑に区別することができる。第1面SK01や第2面SX01では前述の全種類が出土しているが、第1面SK03では貝類のみ、第1面SK02や礫敷1、第2面SK05では哺乳類のみしか出土していない。これらの事実は、動物資源の廃棄単位、あるいは屋敷の建物の場所やその性格との関係を知るうえで興味深い情報である。

以上のように、各調査地点における出土動物相を明らかにし、出土状況を比較することによって、動物資源利用の相違や一括廃棄の特徴などを明らかにすることことができた。松江城下町遺跡は、文献史料に残された屋敷地との関係を考慮しながら城下町での動物資源利用の特徴を考察することができ、今後、他の調査地点の出土資料と合わせて、城下町における動物資源利用の特徴について考察を深めていきたい¹。

註

1. 母衣町100外では、非常に多くのイヌが出土しており、かつ多様な大きさの個体が含まれていることが明らかとなっている（古藤2012）。今後、本稿で報告した資料も含めて各部位の計測を行い、体高や形態の差などについて比較検討し、松江城下町遺跡における人と犬とのかかわりの様相を明らかにしていく予定である。

本稿作成におきましては、財団法人松江市教育文化振興事業団の権山義氏をはじめとした下記の皆様にお世話になりました。記して感謝申し上げます。秦愛子、小山泰生、北島和了、落合啓久、古藤博昭、清水初美（敬称略順不同）

（引用・参考文献）

- 石丸恵利子・江田昌毅2011「松江城下町遺跡（殿町279番地外）にみられる松江藩の家老屋敷における動物資源利用」『松江城下町遺跡（殿町279番地）・（殿町279番地外）発掘調査報告書—松江歴史館整備事業に伴う発掘調査報告書—自然科学分析・写真図版編』、松江市文化財調査報告書第139集、島根県松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団
 島田勇雄・竹島淳夫・磯元巳訛20187：寺島良安「和漢三才図会」6 東洋文庫466、平凡社
 古藤博昭2012「アルファステイツ母衣町II新塗工事に伴う松江城下町遺跡（母衣町100外）発掘調査報告書」松江市文化財調査報告書第149集、島根県松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団

表119 松江城下町遺跡出土動物遺存体種名一覧

| | |
|---|--|
| 海産貝類（汽水域含む） | イワガキ <i>Crassostrea nipponica</i> |
| 腹足綱 Gastropoda | |
| 古腹足目 Vetricastropoda | 硬骨魚綱 Chondrichtyes |
| ミミガイ科 Haliotidae | コイ目 Cypriniformes |
| アワビ類 | ブナ属 <i>Carassius sp. indet.</i> |
| ニシキウズガイ科 Trochidae | スズキ目 Perciformes |
| オオコシダカガニガラ <i>Omphalus pacificus carpenteri</i> | スズキ科 Percichthyidae |
| サザエ科 Turbinidae | スズキ <i>Lateolabrax japonicus</i> |
| ターザエ <i>Turbo cornutus</i> | タイ科 Sparidae |
| 盤足目 Discopoda | マダイ <i>Pagrus major</i> |
| ウミニナ科 Batillariidae | |
| ウミニナ <i>Batilla riamultiformis</i> | 鳥綱 Aves |
| 新腹足目 Neogastropoda | コウノトリ目 Ciconiiformes |
| アッキガイ科 Muricidae | サギ科 Ardeidae |
| アカニン <i>Rapana venosa</i> | サギ科の一種 <i>Ardeidaegen. et sp. indet.</i> |
| テングニシ科 Melongenidae | カモ目 Anseriformes |
| テングニシ <i>Hemifusus ternatanus</i> | カモ科 Anatidae |
| 二枚貝綱 Bivalvia | カモ科の一種 <i>Anatidaegen. et sp. indet.</i> |
| フネガイ目 Arcoida | キジ目 Calloformes |
| フネガイ科 Arcidae | キジ科 Phasianidae |
| サルボウガイ <i>Scapharca subcrenata</i> | ニワトリ <i>Gallus gallus domesticus</i> |
| マルスダレガイ目 Veneroida | キジ科の一種 <i>Phasianidae gen. et sp. indet.</i> |
| シジミ科 Corbiculidae | |
| ヤマトシジミ <i>Corbicula japonica</i> | 哺乳綱 Mammalia |
| マルスダレガイ科 Veneridae | 食肉目 Carnivora |
| ハマグリ <i>Meretrix lusoria</i> | イヌ科 Canidae |
| イガイ目 Mytiloida | イヌ <i>Canis familiaris</i> |
| イガイ科 Mytilidae | ネコ科 Felidae |
| イガイ <i>Mytilus coruscus</i> | ネコ <i>Feliscatus</i> |
| ムラサキイソジ <i>Septifervirgatus</i> | アシカ科 Otaridae |
| カキ目 Ostreoida | アシカ? <i>Zalophus japonicus?</i> |
| イタヤガイ科 Pectinidae | 側蹄目 Artiodactyla |
| イタヤガイ <i>Pecten albicans</i> | イノシシ科 Suidae |
| イタボガキ科 Ostreidae | イノシシ <i>Sus scrofa</i> |
| マガキ <i>Crassostrea gigas</i> | |

表120 動物遺存体観察表1

| 番号 | 調査区名 | 遺構番 | 遺構 | 時期 | 分類① | 分類② | 部位 | 左右 | 備考 |
|------|--------|-----|------|---------------|-----|---------|----------------|-----|--------------------------|
| 1 | 1-1区 | 1面 | 包含層 | 幕末期 | 鳥類? | 四肢骨 | 右鶲骨 | - | |
| 2 | 1-1区 | 2面 | SK07 | 17c前葉 | 魚類 | マダイ | 半體骨 | R | 解剖標あり |
| 3-1 | 1-1区 | 2面 | SK07 | 17c前葉 | 魚類 | キジ | 尾部内尾骨 | L | オス |
| 3-2 | 1-1区 | 2面 | SK07 | 17c前葉 | 魚類 | マダイ? | | | |
| 4 | 1-1区 | | 遺構外 | 小面 | 貝類 | サルベシ | 軸体 | L | |
| 5-1 | 3-2区 | | 水路 | 近現代 | 鳥類 | ニワトリ | 大腿骨 | L | |
| 5-2 | 3-2区 | | 水路 | 近現代 | 魚類 | マダイ留刺? | 筋血管跡 筋1・2疊跡 | | いずれも破片 |
| 5-3 | 3-2区 | | 水路 | 近現代 | 貝類 | ヤマトシジミ | | | |
| 6 | 3-2-a区 | | 包含層 | 小面 | 鳥類 | ガシカニ科 | 上腕骨 | L | オナガガモ大 |
| 7 | 3-2区 | 1面 | SK01 | 19c中葉 ～幕末 | 魚類 | マダイ | 腰椎 | | マダイ新鮮でも大きさ的にマダイ |
| 8 | 3-2区 | 1面 | SK01 | 19c中葉 ～幕末 | 魚類 | タイ科 | 椎骨 | | 尾椎、頭部分解体底あり |
| 9 | 3-2区 | | 遺構外 | 不明 | 貝類 | イサエ | 軟體 | | |
| 10 | 3-2区 | | 遺構外 | 17c前葉 又は以前 | 植物 | | | | 不明 |
| 11 | 3-3区 | | SX04 | 近現代 | 哺乳類 | イヌ | 大腿骨 | R | 内骨端未木化骨 |
| 12-1 | 3-3区 | 2面 | SK05 | 17c前葉 ～中葉 | 哺乳類 | イス? | 大腿骨 | L | 両端部化骨済み |
| 12-2 | 3-3区 | 2面 | SK05 | 17c前葉 ～中葉 | 哺乳類 | イス? | 筋骨・薄? | L | 筋骨が脛骨の遠位部に癒合 |
| 13 | 3-3区 | 1面 | 複数1 | 17c半ば ～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 橈骨 | L | 遠位端のみ木化骨 |
| 14-1 | 3-3区 | 1面 | 複数1 | 17c半ば ～後半代 | 哺乳類 | イス | 頭蓋骨 | | ある程度年をとったオス |
| 14-2 | 3-3区 | 1面 | 複数1 | 17c半ば ～後半代 | 哺乳類 | イス | 下顎骨 | R・L | 14-1～3224個で大型大 |
| 14-3 | 3-3区 | 1面 | 複数1 | 17c半ば ～後半代 | 哺乳類 | イス | 頭椎 | | 標本、軸性、第3・4頸椎 |
| 15 | 3-3区 | 2面 | SX02 | 17c前葉 | 鳥類 | | 脚足根骨 | L | 1.1C～1D, R: P2～M1, L: C右 |
| 16 | 3-3区 | 2面 | SK02 | 17c前葉 | 鳥類 | ヤマトシジミ | 軸体 | | |
| 17 | 3-3区 | 1面 | SK01 | 17c半ば ～後半代 | 鳥類 | ニワトリ? | 上腕骨 | L | 近位端欠損 |
| 18 | 3-3区 | 1面 | SK01 | 17c半ば ～後半代 | 鳥類 | イグサギ | 軸体 | | 深い方 |
| 19 | 3-3区 | 1面 | SK01 | 17c半ば ～後半代 | 鳥類 | カキツバタ | | | 浅い方 |
| 20 | 3-3区 | 1面 | SK01 | 17c半ば ～後半代 | 油蒼類 | イヌ? | 肋骨 | | |
| 21 | 3-3区 | 1面 | SK01 | 17c半ば ～後半代 | 鳥類 | ケンゲニシ科? | 翼 | | |
| 22 | 3-3区 | 1面 | SK01 | 17c半ば ～後半代 | 鳥類 | イタヤカイ? | | | |
| 23 | 3-3区 | 2面 | 包含層 | 17c前半代 | 鳥類 | サザエ | 殻 | | |
| 24-1 | 3-3区 | 1面 | SK03 | 17c後半代 | 鳥類 | テンダニシ | 殻 | | |
| 24-2 | 3-3区 | 1面 | SK03 | 17c後半代 | 鳥類 | サザエ | 殻 | | |
| 24-3 | 3-3区 | 1面 | SK03 | 17c後半代 | 鳥類 | サザエ | 殻 | | |
| 25 | 3-3区 | 1面 | SK03 | 17c後半代 | 鳥類 | サザエ | 殻 | | |
| 26 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c後半代 | 鳥類 | ニワトリ | 尾部中足骨 | R | オス |
| 27-1 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば ～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 翼骨 | R | 近位部～遠位・化骨溝 |
| 27-2 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば ～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 趾骨 | L | 近位部～遠位・化骨溝 |
| 27-3 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば ～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 上腕骨 | R | 近位部～遠位部 |
| 27-4 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば ～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 翼甲骨 | R | 近位部～遠位部 |

表121 動物遺存体観察表2

| 番号 | 調査区画 | 遺構番 | 構造 | 時期 | 分類① | 分類② | 出位 | 左右 | 備考 |
|-------|-------|------|----------|-----------|--------|--------|------|-----|-----------------------------|
| 27-5 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 頭骨 | R | 京町、近傍化骨、遠近化骨 |
| 27-6 | 3-3区 | 1山 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 機骨 | L | 近傍都～遠近(化骨) |
| 27-7 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 尺骨 | R | 近傍都～遠近部 |
| 27-8 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 大腿骨 | L | 近傍都～遠近都 |
| 27-9 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 大脛骨 | R | 近傍都～遠近都 |
| 27-10 | 3-3区 | 1山 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 尺骨 | L | 近傍都～遠近部 |
| 27-11 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 上腕骨 | L | 近傍都～遠近部 |
| 27-12 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 下顎骨 | R・L | メス、11～M0 |
| 27-13 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 上顎骨 | | L:O～M0, R:O2～M1, L:右 |
| 27-14 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | | | 脛骨脛位骨(木化骨分) 大脛骨脛位骨(木化骨分) |
| 27-15 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 跖骨 | L | 対骨口～脚骨破片 |
| 27-16 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イノシシ | 座椎 | | 破片 |
| 27-17 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イヌ | 下顎骨 | R | 下顎体(頭～頸)後端のみ |
| 27-18 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イヌ | 上顎犬齿 | R | |
| 27-19 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イヌ | 跖骨 | | 鶴骨破片 |
| 27-20 | 3-3区 | 1面 | SK02 | 17c半ば～後半代 | 哺乳類 | イヌ | 椎骨 | | 標本2点 |
| 28 | 3-3b区 | 包含層 | 近現代 | 哺乳類 | | | 下顎骨 | L | |
| 29 | 3-3区 | 2面 | 貝殻洞り | 17c前半代 | 貝類 | ヤマトシジミ | 殻体 | | 複数あり |
| 30 | 3-3b区 | 包含層 | 近現代 | 無類 | スズキ | 頭骨 | R | 破片 | |
| 32 | 3-3区 | SK20 | 近現代 | 貝類 | サルボウ | 殻体 | R | | |
| 33 | 3-3b区 | 包含層 | 近現代 | 貝類 | アカニシ? | 殻骨部 | | | |
| 34 | 3-3a区 | 包含層 | 不明 | 貝類 | サルボウ | 殻半 | | | 破片 |
| 35 | 3-3a区 | 包含層 | 不明 | 貝類 | サザエ | 殻体 | | | 棘あり |
| 36 | 3-3a区 | 包含層 | 不明 | 貝類 | ハマグリ | 殻体 | | | 較臼部破片 |
| 37 | 3-3a区 | 包含層 | 不明 | 貝類 | ヤマトシジミ | 殻体 | | | 複数あり |
| 38 | 3-3a区 | 包含層 | 近現代 | 貝類 | ヤマトシジミ | 殻体 | | | 複数あり |
| 39 | 3-3a区 | 包含層 | 老現代 | 貝類 | サルボウ | 殻体 | | | 複数あり |
| 40 | 3-3a区 | 包含層 | 近現代 | 貝類 | サザエ | 殻体 | | | 4個体 |
| 41 | 3-3a区 | 包含層 | 近現代 | 貝類 | サザエ | 壳 | | | 2点 |
| 42 | 3-3a区 | 包含層 | 近現代 | 貝類 | ハマグリ | 殻体 | | | 左3、右1 |
| 43 | 3-3a区 | 包含層 | 近現代 | 貝類 | アワビ | 殻体 | | | 破片 |
| 44 | 3-3a区 | 包含層 | 17c後半代以前 | 哺乳類 | 落懸類 | 上腕骨 | L | | 近傍都～遠近 |
| 45 | 3-3a区 | 包含層 | 近現代 | 鳥類 | 不明 | 尺骨 | | | 骨仲都、ヨハクヂュウコウノトリ |
| 46 | 3-3区 | 1面 | 陳歴1 | 17c中葉～後半代 | 哺乳類 | 海獣類 | 指骨? | | |
| 47 | 3-3区 | 1面 | 西歴2 | 17c後半代 | 哺乳類 | イヌ | 肋骨 | | 解剖あり |
| 48-1 | 3-3区 | 1面 | 種歴2 | 17c中葉～後半代 | 鳥類 | キジ科 | 上腕骨 | L | 近傍都～遠近部 |
| 48-2 | 3-3区 | 1面 | 西歴2 | 17c中葉～後半代 | 哺乳類 | 海獣類? | 脛骨? | | 解剖あり (月初が途中で止った状態) |
| 49-1 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 哺乳類 | イヌ | 椎骨 | L | |

表122 動物遺存体観察表3

| 番号 | 調査区名 | 遺構番 | 坐標 | 時期 | 分類① | 分類② | 部位 | 左右 | 備考 |
|------|-------|-----|------|-------------|-----|-----------------|-------|----|-----------------------------------|
| 49-2 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 哺乳類 | イヌ | 尺骨 | L | 解剖歴あり |
| 50 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 哺乳類 | イス | 左腕骨 | L | |
| 51 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 魚類 | フト鯛 | 左側腹骨 | L | |
| 52 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 貝類 | ヤマトシジミ | | | 多數あり |
| 53 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 貝類 | ヤマトシジミ | | | 多數あり |
| 54 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 鳥類 | ウサギ | 左側中足骨 | R | 解体歴あり |
| 55-1 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 哺乳類 | イス | 尾骨 | L | 解体歴あり、尾骨白・黒骨・駆骨 |
| 55-2 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 哺乳類 | イス | 尾椎 | | 4点、うち1点に解体痕 |
| 56 | 3-3区 | 2面 | SK01 | 17c前葉～中葉 | 哺乳類 | ネコ | 上腕骨 | L | 穴形 |
| 57 | 3-3b区 | | 包含層 | 近現代 | 鳥類 | カツ科 | 下腕骨 | R | 近位部～遠位 |
| 58 | 3-3b区 | | 包含層 | 17c前半代 | 哺乳類 | イス | 脛骨 | R | 近位部～遠位、遺伝座未化骨かい構造あり |
| 59 | 3-3b区 | | 包含層 | 17c前半代 | 哺乳類 | イス | 脛骨 | L | 完形 |
| 60 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | カジニア | | | |
| 61 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | サザエ | 殻着部 | | 駆片 |
| 62 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | イタヤガイ | | | 深い側 |
| 63 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | ハマグリ? | | | |
| 64 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | ムクサキインジ | | | 殻頂部浅く有 |
| 65 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | ハマグリ | | R | |
| 66 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | ヤマトシジミ | | | 複数あり |
| 67 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | カキ | | | |
| 68-1 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | サザエ | | | 右1点、うち2点は駆触のみ。 すべて縫あり。サザエ面3点あり |
| 68-2 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | テングニシ | | | |
| 69 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | イタヤ | | | 深い方2枚、浅い方2枚。うち1点縫合有 |
| 70 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | ハマグリ | | | 左2点、右2 |
| 71 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | テルボウ | | | |
| 72 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | アソビ | | | |
| 73 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | フジワラ | | | |
| 74 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | カラス | | | |
| 75 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | コシダカガシガラ | | | |
| 76 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 鳥類 | キジ科 | 足根中足骨 | R | オス |
| 77 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 鳥類 | ヒンタイ | 塊骨 | L | |
| 78 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 貝類 | サザエ マリスダンガイ等 | | | サザエ駆触片、ハマグリ? 縫着部破片 |
| 79 | 3-4区 | 1面 | SK01 | 19c前半代 | 鳥類 | ヒンタイ | 手根中足骨 | L | |
| 80 | 3-4区 | 2面 | 包含層 | 17c後半～19c初期 | 貝類 | サルボウ | | | 左右各1合われ貝でない |

第7章 総括

本報告書では、第1ブロックの1-1区、第3ブロックの3-1～5区の本発掘調査と第1・3・4ブロックにおいて実施された立会調査56ヶ所について記載した。本発掘調査で検出された主な遺構数は合計54基である。出土遺物は本発掘調査で合計16,562点（総重量約1,036kg）、立会調査で合計1,148点（総重量約88kg）である。これらの発掘調査成果これまでの松江城下町遺跡の調査を踏まえて、各ブロックにおける屋敷地の様相を見ていきたい。まず、絵図等から調査地における堀尾期（17世紀前葉）～松平後期（19世紀後半）の屋敷割と拝領者の変遷を概観し、次に遺構の変遷を追っていくことにする。また、素掘りの大溝については、一節を設けて検討を加えることとする。なお、遺構の時期決定にあたっては検出面の層位と出土遺物の年代観をもとにした。

屋敷地の拝領者や禄高は絵図や「出雲・隱岐堀尾山城守家中給知帳」「京極高次分限帳」「別士録」などの文献資料を参考にした。屋敷の出入り口については、絵図に記された拝領者名の頭文字の方向にあるとされているが、推定できるのは江戸時代後期までそれ以前についてははっきりしていない。

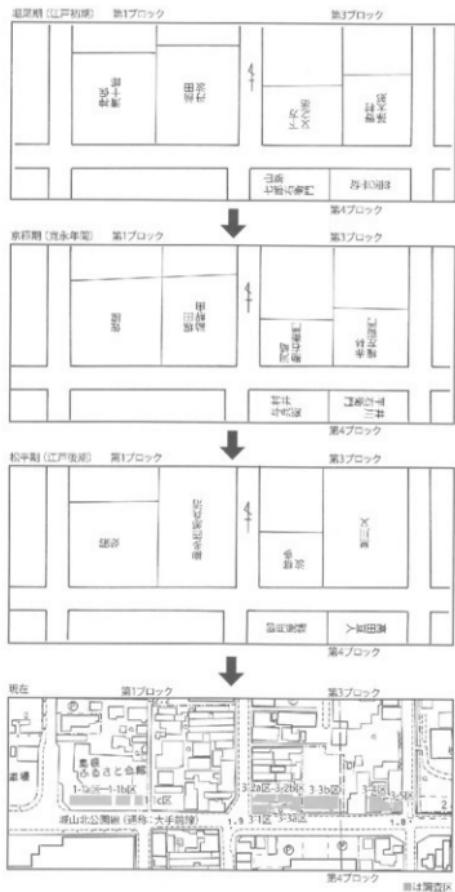
なお、絵図模式図（第180図）中の人名は絵図に書かれているものをそのまま記載した¹。

第1節 第1ブロック

第1ブロックは松江城に近く、城山北公園線（大手前通）沿いの北側にある。江戸時代を通じて重臣の屋敷地が並ぶ区画であったことが絵図類から窺える。調査地はこの区画の西半分にあたり、1-1a～c区である（第180図）。

1. 絵図等に見る屋敷割と拝領者の変遷（第180図）

堀尾期の絵図（元和6～寛永10年〔1620～33年〕）：屋敷割は2分割されており、調査地が位置する西側には、「神保清十郎（禄高2000石）」の名が見える。頭文字の方向か



第180図 江戸時代の絵図模式図と調査範囲

ら、屋敷の出入り口は南にあったものと思われ、調査地は屋敷の表口にあたる。

京極期の絵図（寛永11～14年 [1634～1637年]）：屋敷剣は堀尾期と変わらないようであるが、「佐脇（禄高1810石）」の名が見える。屋敷の出入り口は南にあったものと思われる。

松平期の絵図（万延元～文久元年 [1860～61年]）：屋敷地の範囲は京極期とほぼ同じようで、「脇坂（禄高500石）」の名が西向きに見える。屋敷地の出入口は、この時期西側へと変化しており、調査地は屋敷の南縁辺部にあたる。

2. 遺構の変遷（第181・182図）

第4章第1節2（第1ブロックの本発掘調査のまとめ）および第4章第4節（立会調査のまとめ）をもとに、遺跡を4時期に区分し、遺構の変遷を見ていいく。

1期：17世紀前葉（あるいは城下町造成以前）

標高1.0mの第2面で検出された黒褐色砂質土の高まりや撹拌されたI層の様相から、城下町造成以前、当地は水田等の耕作地として利用されていた可能性がある。この上に城下町が形成される。堀尾氏による城下町形成の初期造成上であるA層内に、松江城の堀端で観察される軟質砂岩（松江層）が混在することから、内堀掘削の残上がり屋敷地の造成に使われたものと思われる。

2期：17世紀前半

第2面検出遺構のうち堀尾期に相当する。柱穴列3基、大形土坑1基がみられる。

初期造成後、屋敷地の南側に大形土坑SK07が掘削される。人鋸屑・鉋屑等が多量廃棄されていたことから、調査区付近で城または屋敷の建築資材が行なわれた可能性が考えられる²。埋土からは魚や鳥の動物遺存体が出土しており、廃棄土坑としても利用されていた（第6章）。また、「サイコロ」の目をもつ木製品（第31図7）が出土している。形が正6面体をなさないことから出目には問題があり、使用目的が不明である。玩具、あるいは民俗例から、航海の安全を祈願して船に祀られる前駆³の可能性が考えられる。

南北方向の柱穴列は櫛あるいは櫛と考えているが、道路沿いの玄関部分に位置することから、門長屋（幅4.5m、長さ14m）と想定することもできる。その時期は、人形土坑の廃絶後と考えられる。

3期：17世紀半ば～後半代

第2面検出遺構のうち松平入府以降にあたる。門長屋に想定される柱穴列は廃絶し、屋敷地の東側（1-1c区）に廃棄土坑2基がみられる。これらの遺構の検出標高は1.2mと前代より約0.2m高いため、屋敷地の嵩上げ造成および建て替えが行なわれたものと思われる。松平期の絵図（幕末期であるが）からは、出入り口が西向きになっていることも関係しているものと思われる。

4期：19世紀～明治初め

標高1.5m前後の第1面で、松平後期にあたる。幕末～明治初めにかけて井戸⁴が廃棄され、多量の瓦や生活雑器の数々が埋められた廃棄土坑SK01～04が掘られる。本来は廃棄土坑など作らないと思われる玄関部分にゴミ穴が掘削されていることから、明治維新により、武家屋敷が庶民の建物や官庁に変貌するこの時期に、屋敷の解体が行われたものと考えられる。

第2節 第3ブロック

第3ブロックは城山北公園線（大手前通）沿いの北側にある。区画の西半分が殿町、東半分が母衣町である。調査地は3-1～5区である（第180図）。

1. 絵図等に見る屋敷割と持領者の変遷（第180図）

堀尾期の絵図（元和6～寛永10年〔1620～33年〕）：屋敷割は2分割されており、東側に「野村孫太郎（禄高500石）、西側に「下方又之丞（禄高1000石）」の名が見える。3-2区から3-3b区西側までが「下方又之丞」の屋敷地に、3-3b区東側から3-5区までが「野村孫太郎」の屋敷地に位置すると考えられる。

京極期の絵図（寛永11～14年〔1634～1637年〕）：屋敷割は堀尾期と変わらないよう、東側に「赤林権左衛門（禄高700石）、西側に「河崎勘右衛門（禄高700石）」の名が見える。3-2区から3-3b区西側までが「河崎勘右衛門」の屋敷地に、3-3b区東側から3-5区までが「赤林権左衛門」の屋敷地に位置すると考えられる。

松平期の絵図（万延元～文久元年〔1860～61年〕）：調査地のうち3-3b区東側から3-5区までが位置する東側の「黒川又左衛門」の屋敷地は南北に広がっている。3-2区から3-3b区西側までが位置する西側の屋敷地の範囲は、京極期とほぼ同じようで、「柳多波（禄高500石）」の名が見える。

戸敷地の出入口は、いずれの絵図も頭文字が南向きで記されていることから、江戸時代を通じて南（城山北公園線：大手前通）側にあったものと思われ、調査地は屋敷の表口にあたる。

2. 遺構の変遷（第181・182図）

第4章第2節6（第3ブロックの本発掘調査のまとめ）および第5章第4節（立会調査のまとめ）をもとに、遺跡を4時期に区分し、遺構の変遷を見ていく。

1期：17世紀前葉（城下町造成最初期）

3-2a区第5面、3-3b区第3面、3-4区第4面、3-5区第4面が相当する。1層上（3-5区ではA'層下）で検出した遺構である。堀尾氏による城下町形成の初期段階にあたる。この時期、素掘りの大溝が両屋敷に共通して見られ、他に目立った遺構は見当たらない。素掘りの大溝は、ブロックの東と西の南北道路に沿って南北溝が、南の城山北公園線（大手前通）に沿って東西溝が走る。大溝は立会調査においても何ヶ所か検出されたが、現道路下では確認されないことから、道路に沿って屋敷内側に掘られたものと考えられる。低湿地に形成される城下町の造成において、排水と屋敷割を兼ねて最初に掘削されたものと考えられる。この人溝の掘削による廃土が屋敷地の盛土に使われた（A層：初期造成土）ものと思われる。A層内で見られたウラジロ（シダ類）の堆積は、低湿地の造成における地業の一例を示すものと考えられる。

2期：17世紀前半

3-2a区第4面、3-3b区第2面、3-4区第3面、3-5区第3面が相当する。A層上（3-5区ではA'層上）で検出した遺構である。1期に見られた素掘りの大溝は埋没し、造成土の上に遺構が見られる。

東側屋敷地では、3-4・5区で堀尾期の採土上坑と思われる大形土坑が掘削される。その廃土は屋敷地内の嵩上げ造成に充てられたものと思われる。この時期を構築年代と推定した3-3b区の石垣が道路上に

沿って築かれる。この石垣は、屋敷地の表口にあることから、門長屋（推定幅4.5m、長さ8m以上）の土台を兼ねる可能性が考えられる。

ブロックの中央部、東西両屋敷の中間部分にあたる3-3b区では、大形の遺構SX01・02が見られる。SX01とSX02の中間は堀尾割の絵図では屋敷境に相当している。SX02を溝と仮定するならば、堀尾割の境界溝の可能性が考えられる。

西側屋敷地では、SX02より西側で上留め遺構で区画された竹木舞の壁をもつ建物が建っていたものと思われる。また、屋敷の南西部（3-2a区）で柱穴列や区画的な竹組をもつSX01などが作られる。

これらの遺構から、屋敷ごとによる建設方法や造作の相違が見てとれる。このことはまた、素掘りの大溝など、城下町全体に関わる初期の造成事業は公的に行われ、その後はそれぞれの屋敷の持領者によって建設が進められたことを現わしているものと考えられる。なお、ブロックの東端部（3-5区）と西端部（3-1区）で確認されたような道路側溝の石垣は、この時期から構築されたものと思われる。

3（A・B）期：17世紀半ば～19世紀初め

松平入府以降にあたる。2期と屋敷の区画は変わらないが、様相には変化が見える。約150年間という時期幅であることから、何段階かの生活面が存在する。3-2a区第3面、3-3b区第1面、3-4区第2面、3-5区第2面が相当する時期を3A期（17世紀半ば～18世紀代）、3-2a区第2面が相当する時期を3B期（18世紀～19世紀初め）とした。

東側屋敷地では、東端部にあたる3-4・5区で植栽痕が多く見られることから、3期をとおして南東部に庭が築かれていたものと思われる。

西側屋敷地では、3A期の遺構として、3-3区の土坑（SK01・02）や石組水路、礎引き、廃棄土坑などがある。南西部（3-2区）で竹製土留めをもつ土坑などが見られる。また、3B期の遺構として、3-2a区で溝状遺構（SD01）と土坑（SK02）が見られる。

両屋敷とも建物は確認されなかった。これは、調査地が道路に沿った幅約12.0mのトレンチ状であることも関係していると思われ、おそらく調査地より北側に母屋等は建っていたものと推察される。

なお、遺構内および包含層から犬をはじめ様々な動物遺存体が見つかっている。の中でも、ニホンアシカとみられる骨が3-3区の包含層から見つかっている。骨には解体痕があり、資源として利用されたものである（第6章）。ニホンアシカは現在絶滅危惧種に指定されているが、昭和初期まで島根県竹島で捕獲されており¹、江戸時代においても捕獲利用されていたことを示す貴重な資料である。

4期：19世紀～明治初め

3-2a区第1面、3-4区第1面、3-5区第1面が相当する。松平後期にあたる。

東側屋敷地では、19世紀前半代に井戸あるいは地下貯蔵庫と思われる3-4区の石積土坑1・2が廃絶し、廃棄土坑（SK01）ができる。

西側屋敷地の3-2a区でも明治初めにかけての大形廃棄土坑（SK01）が見られる。これらの土坑からは生活雑器とともに多量の瓦が出土している。このような廃棄土坑がこの時期、両屋敷において確認され、また、第1ブロックの屋敷地でも見られることから、幕末から明治初めにかけて屋敷地に関係なく屋敷の解体が行われたものと思われる。

今回の調査では文字資料遺物が何点か出土している。3-4区の廃棄土坑SK01（19世紀前半代）からは、「メ三百め 次三郎」、「菅浦（現在の松江市美保関町菅浦）年寄 友太@/庄屋 仙蔵@」と墨書きされた板（第114図3）や、「神門郡稻岡村（現在の出雲市稻岡町）」、「米屋裕三郎」と墨書きされた板（第115図4）が出土している。おそらく「黒川又左衛門」の屋敷地にあったものと思われる。物資の流通状況が分かる資料である。

また、明治以降ではあるが、立会調査MJR240で検出された遺構の底から、祈禱具の木箱と鉄球が出士している（第159図1・2）。安全祈願を目的として埋納されたものと思われる。鉄球は松江城下町遺跡（殿町279、287外：松江歴史館）などでも発見されているが、松江城下における祈禱のありかたを示す貴重な資料である。

第3節 第4ブロック

第4ブロックは城山北公園線（大手前通）沿いの南側にあたり、道路を挟んで第3ブロックの南に位置する。区画の西半分が般町、東半分が母衣町である。

1. 絵図等に見る屋敷割と拝領者の変遷

堀尾期の絵図（元和6～寛永10年〔1620～33年〕）：屋敷割は2分割され、東側に「並河平助（禄高500石）、西側に「山路七郎右衛門（禄高1000石）」の名が見える。山路七郎右衛門は鉄砲30人付で、屋敷地は鎌型路の道路幅分広い。

京極期の絵図（寛永11～14年〔1634～1637年〕）：屋敷割は堀尾期と変わらないようで、東側に「井川平右衛門（禄高600石）、西側に「村井与兵衛（禄高450石）」の名が見える。

松平期の絵図（万延元～文久元年〔1860～61年〕）：屋敷割は、東側の屋敷地が広がり（約3分の2）、「高田五人（禄高300石）」の名が見える。西側は藩の「御用屋舗」となっている。

屋敷地の出入口は、江戸時代を通じて東側の屋敷は東向き、西側の屋敷は西向きに拝領者名が記されていることから、それぞれの方向にあったものと思われる。調査地は屋敷の北縁辺部にあたる。

2. 遺構の様相

第4ブロックの調査は立会調査のみで、遺構の変遷を追うことはできない。屋敷地の北縁辺部を調査したことになるため、素掘りの大溝と側溝石垣の他に目立った遺構は検出されなかった（第179図）。

17世紀前葉の堀尾氏による城下町造成が始まった段階として確認されるのは、素掘りの大溝である。城山北公園線（大手前通）の南側で道路に沿う形で東西方向の大溝が走る。北東側角地（MJR196）では南北方向と東西方向の溝が確認された。大溝はいずれも屋敷地の内側に掘られていた。

素掘りの大溝が埋没した後、側溝石垣の石組水路が道路に沿って築かれる。その後明治初めまで石組は改築嵩上げされ、現代の道路側溝に引き継がれていく。MJR179・180の状況からは、屋敷の拡張に伴って改築工事が行われた可能性も考えられる。



第181図 遺跡の変遷 1 (1 : 1,000)

第182回 滋賀の変遷2 (1 : 1,000)



第4節 素掘りの大溝について

素掘りの大溝は、松江城下町遺跡を考察するうえでの重要な遺構のうちの1つである。今回確認された本調査と立会調査の成果から、素掘りの大溝について若干の考察を加えたい。

大溝の規模と形態

素掘りの大溝は、松江城下町遺跡で確認される遺構であるが、本節で扱う素掘りの大溝は、崩尾氏による城下町形成の初期段階に道路に沿って掘削される大溝である。松江城下町遺跡（段町287・279外：松江歴史館）などで検出されている屋敷塀の溝は含めていない。

確認された素掘りの大溝のうち、規模・形状・方向等が把握できるものを表123にまとめた。

表123 素掘りの大溝観察表

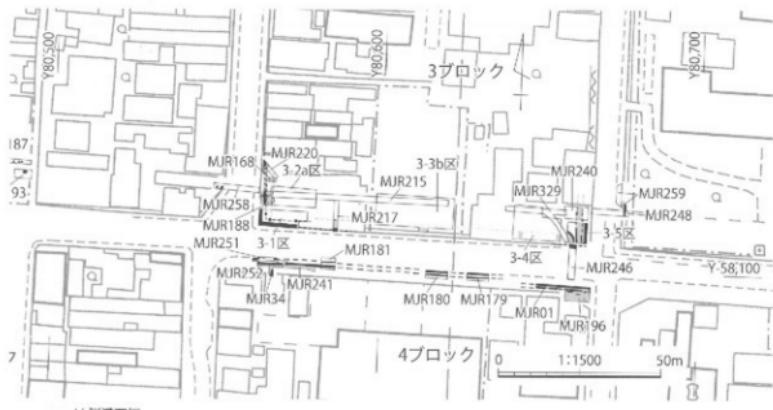
| 調査区 | 遺構名 | 方向 | 規模・形状・断面形 | 備考 |
|--------|------|----|------------------------|-------------------------|
| 3-2a | SD02 | 南北 | 幅約3.0m以上、深さ0.7m以上・逆台形? | MJR168大溝につながる |
| 3-3b | SD02 | 東西 | 幅2.3m以上、深さ1.0m以上・不明 | トレンチ内、3-4区SD01につながる |
| 3-4 | SD01 | 東西 | 幅1.0m以上、深さ0.6m以上・不明 | トレンチ内、3-5区SD02につながる |
| 3-5 | SD01 | 南北 | 幅約3.0m、深さ1.2m・逆台形 | MJR240大溝につながる |
| 3-5 | SD02 | 東西 | 幅3.5m以上、深さ0.7m以上・皿状? | 3-4区SD01・3-3b区SD02につながる |
| MJR240 | 大溝 | 南北 | 幅約3.0m、深さ1.2m・逆台形 | 3-5区SD01の北延長部 |
| MJR168 | 大溝 | 南北 | 幅2.2m以上、深さ不明・不明 | 3-2a区SD02の北延長部 |

素掘りの大溝は、城下町を区画する道路（南北・東西）に沿う形で屋敷内側に検出される。第3ブロックの南東部3-5区において、SD01（南北溝）とSD02（東西溝）が検出され、角地での大溝の様相が確認された（第183図）。詳細については第4章第2節で述べたが、疑問の残る点も多い。

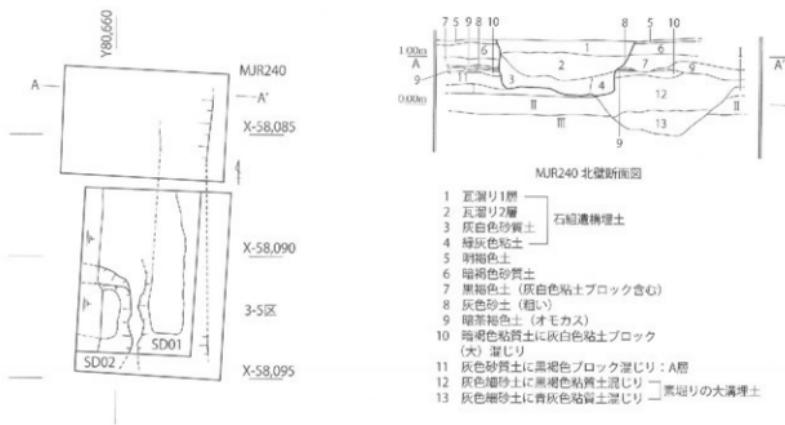
溝幅は、南北溝の3-5区SD01が約3.0m、東西溝の同区SD02が3.5m以上を測る。立会調査の結果から、現時点では素掘りの大溝は道路側溝石垣より道路側では確認されていないことから、道路側溝石垣から屋敷内側に向かって溝幅をとる。3-3b区SD02（東西溝）の検出幅は約2.3mで、溝の北肩から道路側溝まで約3.3mを測る。また、3-4区SD01（東西溝）の想定される北肩から道路側溝まで約4.2mを測る。3-2a区SD02（南北溝）の検出幅は約3.0mで、溝の東肩から南北道路まで5.0mを測る。ただし、道路側溝幅0.6mを引くと推定される溝幅は約4.4mである。以上から、溝幅は約3.0~4.4mと推測される。

断面形は、確定はできないが、形状が確認できた3-5区SD01（MJR240大溝）から、逆台形をなすものと思われる。

深さは、I肩上面の検出面から、3-2a区SD02で0.7m以上、3-3b区SD02で1.0m以上を測る。素掘りの大溝が機能していたA層面までの造成土の厚み（0.2m前後）をたすと1.0m前後以上が推測される。また、3-5区SD01で1.2mを測るが、この溝は角地にあたり、南側で浅くなることから北に向かってさらに深くなることが予想される。さらに、平成23年度に実施された松江城下町遺跡（段町198-2外）において、素掘りの大溝の一部が検出され、深さ1.9mからさらに落ち込む様相が見られた。以上から、大溝の深さは1.0m前後以上2.0m弱と推測される。



■は側溝石垣
■は素掘りの大溝



3-5区 SD01・02、MUR240 大溝平面図

第183図 確認された素掘りの大溝(配置図 1:1500、遺構平面図 1:200、土層断面図 1:100)

大溝の掘削深度は、確認された西の殿町で標高-0.8m、東の母衣町で標高-0.9mを測り、標高-0.2m以下で確認される自然堆積層のⅢ層まで掘り込む深さである。初期造成上のA層が自然堆積層Ⅰ～Ⅲ層の混合土であることは、素掘りの大溝のような大規模な掘削によるものであることが考えられる。また、Ⅰ層上に広く堆積するこのA層は、水にさらされない状態では固く綿ることから、屋敷地の地盤に適した土であったと思われる。造成に必要な土量を大溝の掘削によってすべて得ることができたかは疑問のあるところではあるが、大溝の掘削によって、低地の排水を行なうと同時に、屋敷地の造成を進めていくことが出来たものと思われる。

第5節 課題と今後の展望

今回の調査では、調査区の範囲の狭さや分断した調査などから、遺構面の判定や遺構の繋がりに問題を残す部分もあった。特に、基盤層からの遺物が少なく、層序も連続しない調査区では、時期分けに苦渋する場合もあった。検出された個々の遺構と屋敷地の整備状況の関係を把握するにあたり、調査区が県道城山北公園線沿いに位置することから、屋敷地の縁辺部をトレンチ状に調査した形であったことも、充分な検証に至らなかった点である。

これまで述べてきたように、今回の本調査および立会調査の発掘調査成果から、松江城下町遺跡の変遷を見るとともに、造成の有り様を考察した。特に、素掘りの大溝については、規模と形状が一部ではあるが把握され、その掘削が堀尾氏による城下町の初期造成において基本となる事業であったことが改めて認識された。未解明な部分もあるが、城下町の整備と発展がどのように行われてきたのか、その解明に努めていきたい。松江城下町遺跡では、近世城下町を研究するうえで注目される遺構・遺物が発見されており、今後の調査が期待される。

註

- 1 松平期は223年間の長い統治期間であり、城下町絵図は複数現存している。そのため、屋敷の拝領者も複数名存在していたことが絵図や文献から窺える。今回示した松平期（江戸後期）の絵図は発掘調査成果の年代間に合致するものとして掲載した。
- 2 本調査区より北約200mの同じく塙を挟んで東側にある同遺跡（駒町279番地「松江歴史館」）の第4面下面（17世紀初頭）で、城の建設に関係すると推測される鐵治開運遺構が検出されている。
- 3 須藤隆仙「世界宗教用語大事典」新人物往来社2007年
「天一地六オモテ三あわせトモ四あわせ中二どっさり（ほり）」とあわせる。『日本大百科全書』小学館1993年
- 4 杉原隆「郷土の歴史から学ぶ竹島問題」鳥取県総務課竹島問題研究所2009年

図 版



1
調査区周辺
(南西から)
島根ふるさと館



2
調査前
(南東から)



3
表土掘削状況
(西から)

図版2 1-1区



1
1-1 a区
建物基礎
検出状況
(西から)



2
1-1 a区
S A01
完削状況
(北から)



3
S A01
P 1



1
S E 01
土層断面
(上層部) 中央にピンボール



2
1-1 a区
S E 01
竹筒
検出状況



3
松江層砂岩
検出状況

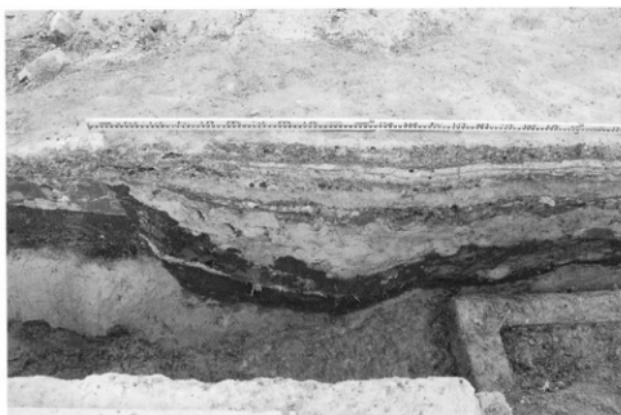
図版4 1-1区



1
1-1 a区
南壁土層断面
(松江層砂岩、I層、II
層)



2
1-1 a区
SK07
大鋸屑、鉢屑
検出状況



3
1-1 a区
SK07
土層断面



1 1-1 a区 SK07 完掘状況（東から）中央の方形構造物は擾乱。



2 1-1 a区 SK07 完掘状況（北から）中央の方形構造物は擾乱。

図版6 1-1区



1 1-1 b区 第2面 SA02・03 完掘状況（西から）



2 1-1 c区 第2面 完掘状況（南から）



1
1-1 a区
高まり1
検出状況
(北東から)



2
高まり1
(A-A'断面)



3
1-1 c区
深掘りトレンチ

図版8 3-1区



1
完掘状況
(東から)



2
石積側溝と石列1



3
石積側溝と石列2
(北から)



1
石積側溝と石列3
(東から)



2
石列4
(東から)



3
石積側溝
輪違文の刻印のある石
(北から)

図版10 3-2区



1
3-2 b区
調査前状況
(南から)



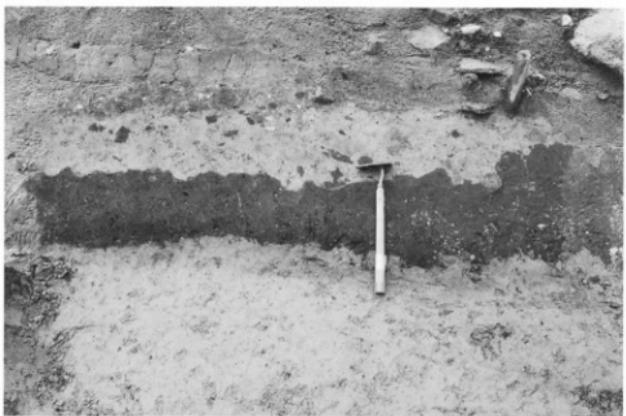
2
3-2 b区
表土掘削状況
(南西から)



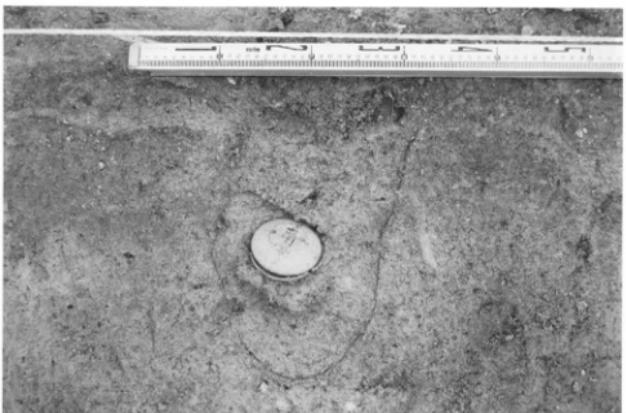
3
3-2 a区
調査状況
(東から)



1
3-2 b区
土層断面
(北壁)



2
3-2 b区
土層断面
(A層、I層、II層)



3
3-2 a区
土師器皿(第66図1、2)
出土状況

図版12 3-2区



1 3-2 b区 第1面 完掘状況（東から）



2 3-2 a区 第1面 SK01 瓦溜まり検出状況（南から）



1
3-2 a区
第1面
瓦撤去後の
石検出状況
(南から)



2
3-2 a区
第1面
SK01
杭検出状況
(南から)



3
3-2 a区
第1面
SK01
北西部
盛り上がり状況
(東から)

図版14 3-2区



1 3-2 b区 第2面 SD01・SK03 調査状況（東から）



2 3-2 b区 第2面 SD01 丸太材 検出状況（西から）



1 3-2 b区 第2面 SK03 調査状況（東から）



2 3-2 b区 第2面 SK03 完掘状況（東から）



1
3-2 b区
第3面
SK03
竹木舞 検出状況



2
3-2 b区
SK03
竹木舞 (部分)



3
3-2 b区
SK03
竹木舞



1 3-2 b区 第3面 調査状況 (東から)



2 3-2 b区 第3面 碓敷 (西から)



1
3-2 b区
第3面
石組1
(東から)



2
3-2 b区
第3面
石組1



3
3-2 b区
第3面
石組1
(北から)



図版20 3-2区



1 3-2 a区 第4面 SX01 (南西から)



2 3-2 a区 第4面 SX01 西側 (南から)



1 3-2 a区 第4面 SX01 竹組1・2 (東から)



2 3-2 a区 第4面 SX01 竹組3 (北から)

図版22 3-2区



1
3-2 a区
第4面
S X01
竹組3 (部分)



2
3-2 a区
第4面
S X01
竹組3 (部分)



3
3-2 a区
第4面
S X01
(西から)

1
3-2 a区
第5面
S K04
(東から)



2
3-2 a区
S D02
検出状況
(南から)



図版24 3-3区



1
調査区周辺
道路は城山北公園線
(南西から)



2
3-3 b区
東側
近現代遺構面
(東から)



3
3-3 a区
西側
近現代遺構面
(北から)

1
3-3 a区
西侧
第1面
調査状況
(東から)



2
3-3 a区
第1面
SK01
遺物出土状況
(北から)



3
3-3 a区
第1面
SK02
調査状況
(北から)



図版26 3-3区



1 3-3 b区 西側 第1面（東から）



2 3-3 b区 東側 第1面（東から）



1 3-3 b区 第1面 石組水路1・礫敷1（東から）



2 3-3 b区 西側 第1面（北から）



1
3-3 b区
建物土台2
(東から)



2
3-3 a区
土留め遺構1
(北東から)



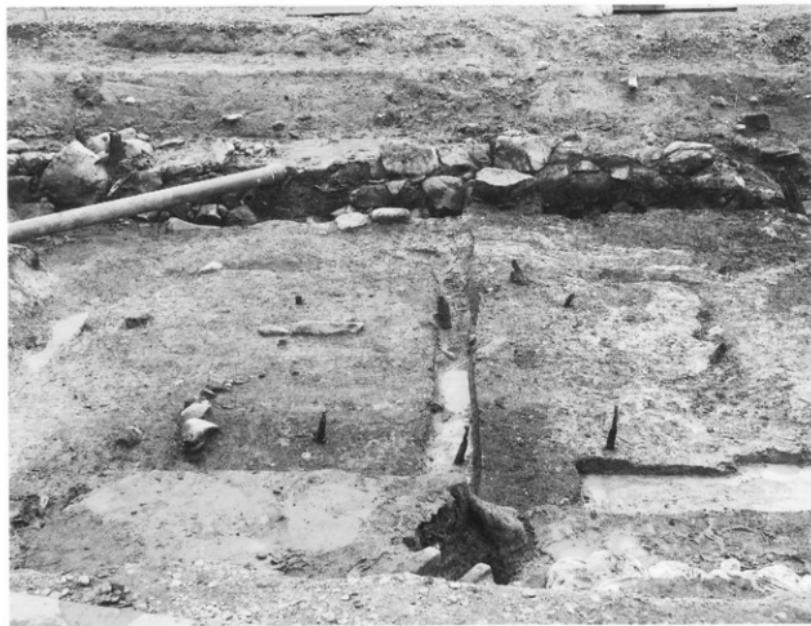
1
3-3 a 区
第2面
壁状遺構 1



2
3-3 a 区
第2面
建物土台 1
(西から)



1 3-3 b区 東側 第2面 (東から)



2 3-3 b区 第2面 石垣1 (北から)

1
3-3 b区
第2面
石垣1
(北から)



2
3-3 b区
第2面
石垣1
(西から)



3
3-3 b区
石垣と杭



図版32 3-3区



1
3-3 b区
第3面
SK05
SX01
(南から)



2
3-3 b区
第3面
SK05
完掘状況
(南から)



3
3-3 b区
第3面
SX01
土層断面
(北壁)

1
3-3 b区
S X02
検出状況
(北西から)



2
3-3 b区
S X02
調査状況
(南から)



3
3-3 b区
第3面
S X02
土層断面

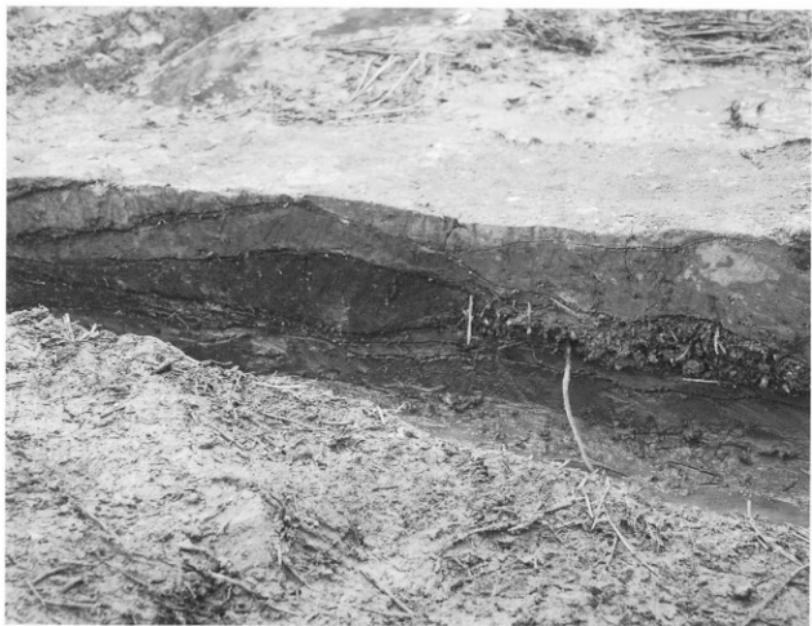




1 3-3 b区 ウラジロ 検出状況（西から）



2 3-3 b区 ウラジロ 検出状況（東から）



1 3-3b区 ウラジロ 検出状況（トレンチA-A'）



2 人骨出土状況

図版36 3-4区



1
調査前
道路は城山北公園線
(南から)



2
第1面
SA01
(西から)



3
第1面
SK01
完掘状況
(東から)



1
第1面
SK02
完掘状況
(南から)



2
第1面
石積土杭1
(南東から)



3
第1面
石積土杭1
(東から)





1
第2面
(西から)



2
第2面
調査状況
(南西から)



3
第2面
植栽痕



1 第4面 SK03・04 調査状況（東から）



2 第4面 SK03・04 完掘状況（南西から）



1
第4面
SK03
土層断面



2
第4面
SK04
完掘状況
(東から)



3
I層
検出状況
(北から)

図版42 3-5区



1

調査前
手前道路は城山北公園線
(南東から)



2

トレンチ内
石積遺構
(北から)

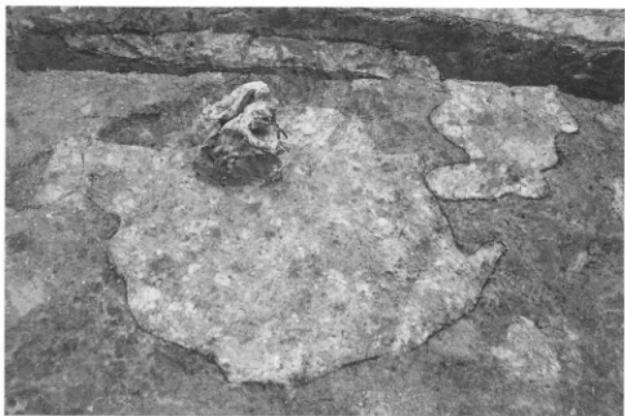


3

第1面
(南から)



1
第2面
植栽痕
(南から)



2
第2面
植栽痕



3
第2面
植栽痕
完掘状況
(北から)



1
第3面
SK01
完掘状況
(東から)



2
SK01
土層断面
(西壁)



3
第3面
SK01
土層断面
(北壁)



1 第4面 SD01・02 検出状況（北から）



2 第4面 SD01・02 調査状況（北から）





19-1



20-1



20-2



21-1



21-2



21-3

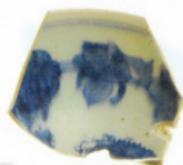


24-1



26-1

SA02-P2



26-2



26-4



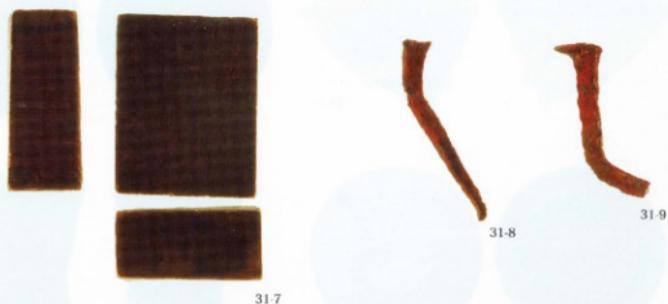
27-1



27-2

图版48 1-1区出土遗物





図版50 3-2区出土遺物





45-3



45-4



45-5



45-6



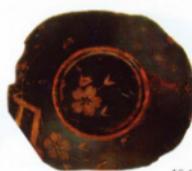
45-6



45-7



45-8



45-9



45-10



45-11



45-12



45-13



45-14



45-15



45-16



45-16



46-1



46-2

图版52 3-2区出土遗物

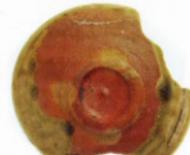


47-1

47-2



52-1



52-2



52-3



52-4



52-5



52-6



52-7



52-8



52-9



52-10



图版54 3-2区、3-1区、3-3区出土遗物



3-2区



3-1区



3-3区



图版56 3-3区出土遗物





78-4



79-1



—



79-2



79-3



—



79-4



—



79-5



80-1



—



80-2



—



80-3



80-4



—



80-5



—



81-1

图版58 3-3区出土遗物





82-7



82-8



82-9



83-1



83-2



83-3



83-4



83-5



83-6



83-7



83-8



83-8



83-9



84-1



85-1



85-1

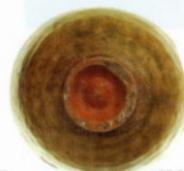


93-1



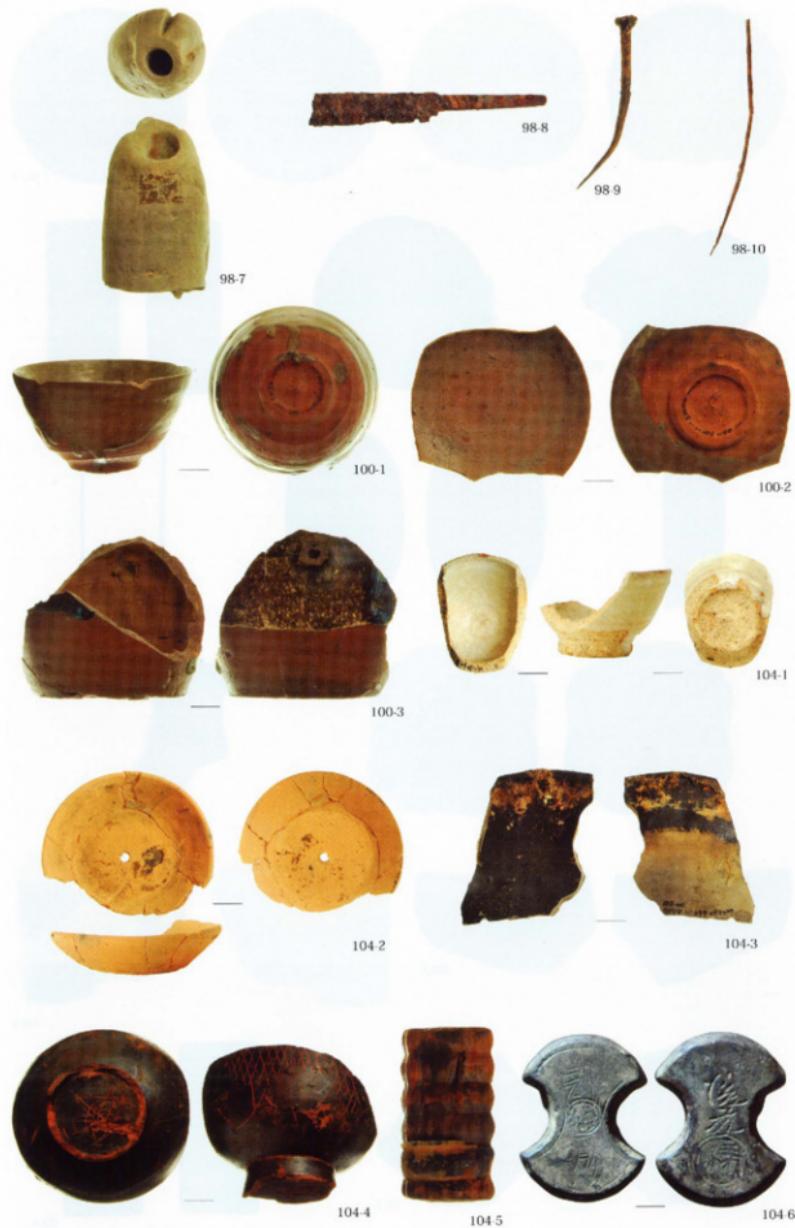
93-2

图版60 3-3区出土遗物





图版62 3-3区出土遗物





107-1



107-2



109-1



109-2



109-3



109-4



109-5



109-6



109-7



109-8



109-9



109-10



—

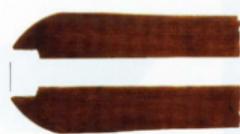


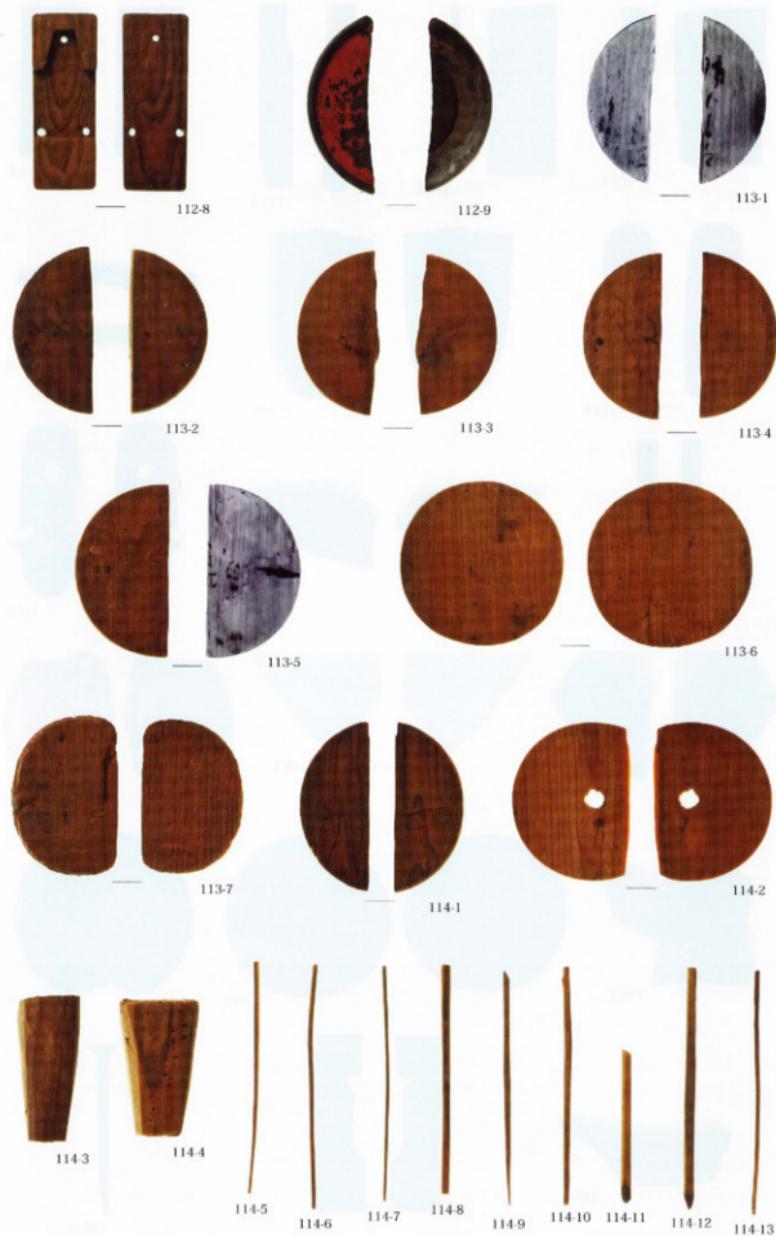
110-1



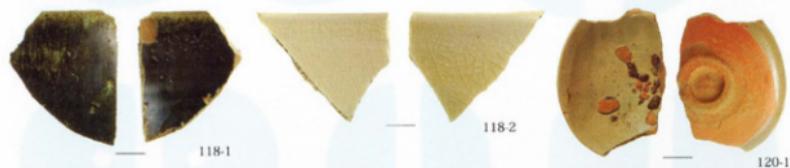
110-2

图版64 3-4区外出土遗物





図版66 3-4区出土遺物





129-1



135-1



135-2

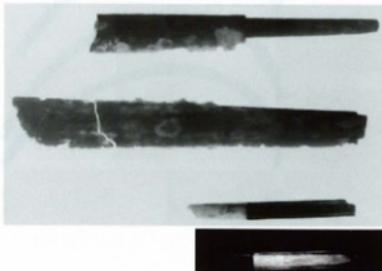


136-1



136-2

3-5区

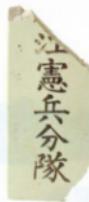


98-8

62-2

54-1

54-1



3-3区 近現代遺物

鉄製品X線写真



159-1・2



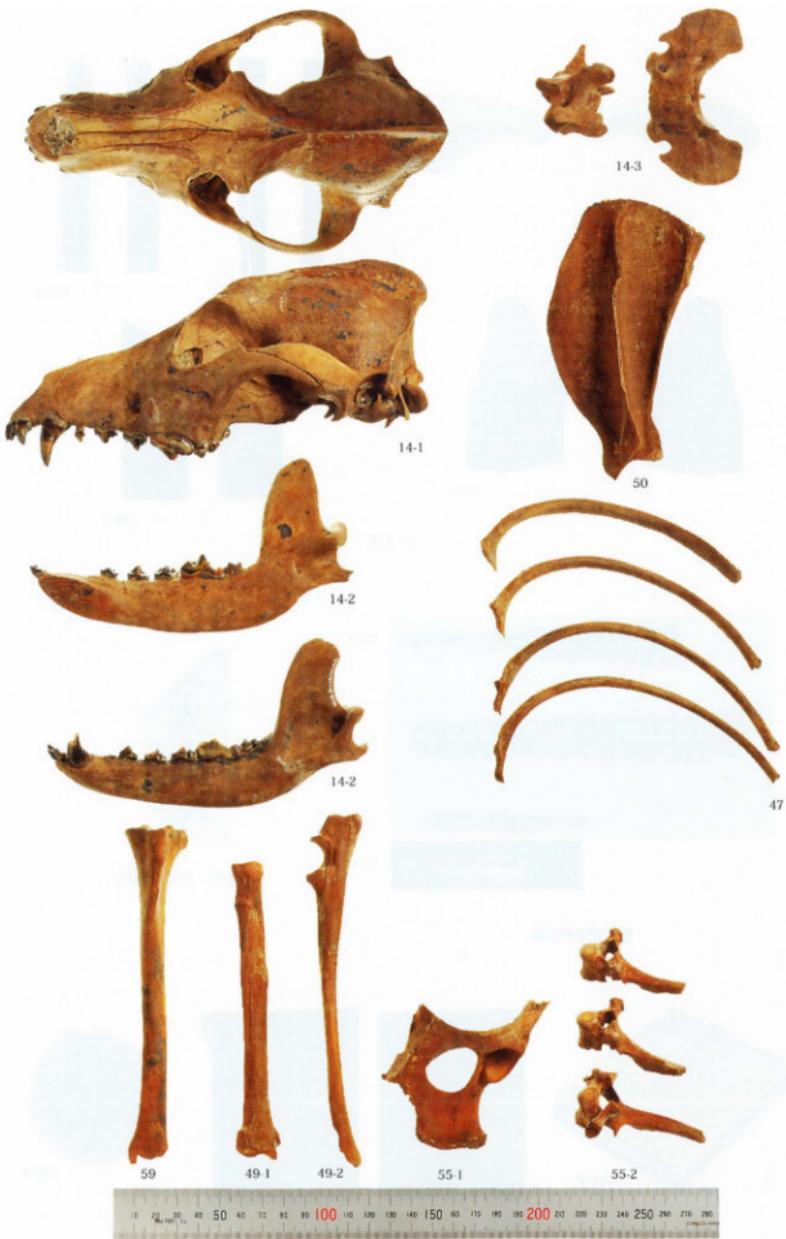
159-1



159-2



159-3



哺乳類1(イヌ)



27-13



27-12

イノシシ



27-1



27-3



27-4



27-8



27-5



27-7

イノシシ



ネコ



56



44



48.2



46 海獣類



図版70 動物遺存体(3)





図版72 動物遺存体(5)



イヌ胸椎 55-2



イヌ胸椎 55-2



イヌ寛骨 55-1



イヌ尺骨



イヌ肋骨 47



二ホンアシカ上腕骨 44



二ホンアシカ上腕骨 44



海獣類指骨
48-2



サギ科
足根中足骨
54

17

解体痕のある骨 (◀は解体痕)

ニワトリ上腕骨

報告書抄録

| ふりがな | じょうざんきたこうえんせんとしけいかくがいろじぎょうにともなうまつえじょうかまちいせきはくっつちょうさ ほうこくしょ2 まつえじょうかまちいせき だい1ぶろくく (にしがわ) だい3ぶろくく だい4ぶろくく | | | | | | | |
|--|--|--|--|---|---|-------------------|------------------------|--|
| 書名 | 城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書2 松江城下町遺跡 第1ブロック（西側） 第3ブロック 第4ブロック | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 松江市文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第154集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 圓山 焕 | | | | | | | |
| 編集機関 | 松江市教育委員会 財団法人松江市教育文化振興事業団 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒690-8540 島根県松江市木次町86番地 〒690-0401 島根県松江市島根町加賀1263-1 | TEL: 0852-55-5284 TEL: 0852-85-9210 | | | | | | |
| 発行年月 | 2013年3月 | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 | |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | 東経 | | | | |
| 松江城下町遺跡 (殿町191-13外) | 松江市 殿町 191-13番地外 | 32201 | D1026-39 | 35° 28' 23" 133° 03' 14" | 20090701 ~ 20091231 | 333m ² | 城山北公園 線都市計画 街路事業 | |
| 松江城下町遺跡 (殿町344外) | 松江市 殿町 344番地外 | 32201 | D1026-43 | 35° 28' 23" 133° 03' 16" | 20100216 ~ 20100713 | 154m ² | " | |
| 松江城下町遺跡 (殿町345-1外) | 松江市 殿町 345番地1外 | 32201 | D1026-7 | 35° 28' 23" 133° 03' 16" | 20060818 ~ 20061002 | 68m ² | " | |
| 松江城下町遺跡 (母衣町40外) | 松江市 母衣町 40番地外 | 32201 | D1026-33 | 35° 28' 23" 133° 03' 17" | 20080901 ~ 20090626 | 335m ² | " | |
| 松江城下町遺跡 (母衣町44外) | 松江市 母衣町 44番地外 | 32201 | D1026-65 | 35° 28' 23" 133° 03' 19" | 20120514 ~ 20120725 | 132m ² | " | |
| 松江城下町遺跡 (母衣町45外) | 松江市 母衣町 45番地外 | 32201 | D1026-48 | 35° 28' 23" 133° 03' 19" | 20110728 ~ 20110913 | 32m ² | " | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 松江城下町遺跡 (殿町191-13外) (殿町344外) (殿町345-1外) (母衣町40外) (母衣町44外) (母衣町45外) | 城下町遺跡 | 江戸時代 ~ 明治時代 | 土坑 石積上坑 柱穴 礫敷 ウラジロ敷詰 溝状遺構 | 陶器 磁器 土器 木製品 瓦 金属製品 石製品 | 近世の武家屋敷の一部を調査し、柱穴、土坑、石垣などを検出した。また、江戸時代初期の素掘りの人溝を検出した。 | | | |

松江市文化財調査報告書 第154集

**城山北公園線都市計画街路事業に伴う
松江城下町遺跡発掘調査報告書 2**

松江城下町遺跡

第1ブロック（西側）

第3ブロック

第4ブロック

平成25(2013)年3月

編集・発行 島根県松江市教育委員会
財団法人 松江市教育文化振興事業団

印 刷 有限会社 黒潮社
島根県松江市向島町182-3

